

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	LINV24MSP
適用 バージョン・レベル	V24L20
製品コード	A9316626-2420-1

# ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/TF-LINDA V24



## ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/TF-LINDA V24

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

なお、本ソフトウェアは、OSIV/MSPスケーラブルSCMPシステム環境においても稼動します。その場合のインストールにつきましても本書をご利用ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

参照 → 本書の中の参照箇所を示しています。

【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例： 【1】 1.2 …… “適用マニュアル” 第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2012年4月

富士通株式会社

## 目 次

1 . 機 能 概 要 .....	1
2 . 構成プログラム .....	3
3 . 適用マニュアル .....	4
4 . 新 機 能 .....	4
5 . 移行上の注意 .....	7
6 . ソフトウェア組合せ条件 .....	9
7 . 提供媒体形式と内容 .....	10
8 . D A S D所要量 .....	11
9 . インストラクションの手引 .....	12
10 . 日本語名標辞書データ変換プログラム .....	32
11 . アナライズファイル変換プログラム .....	36
12 . アナライズ情報登録プログラム .....	39
13 . 索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム .....	41
14 . VSAMアイテムライブラリ変換プログラム .....	44
15 . アイテムライブラリ編成変換プログラム .....	47
16 . プロフィール参照用コマンドプロシジャ .....	48
17 . プログラム修正事項 .....	49
18 . 制限事項 .....	55

## 1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

詳細は、本書の“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照する。

OSIV/MSP SIMPLIA/TF-LINDA (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Testing Facility of Logical INformation support tool of DATaset) (以降 LINDA と呼ぶ) は、テストデータの作成と検証を支援することを目的とし、一般データセットの創成、更新、印刷を行うアプリケーションプログラムである。主な機能では COBOL85 の登録集原文 (以降コピー句と呼ぶ) を使用して処理を行う。

### 1.1 データセットの創成機能

順編成、VSAM、相対編成、区分編成の各データセットの創成を行う。順編成及び VSAM (KSDS, ESDS) については可変長レコードも扱う。

### 1.2 データセットの更新機能

順編成、索引順編成、VSAM、相対編成、区分編成の各データセットの更新を行う。VSAM 及び相対編成については、AIM 配下のデータセットも扱う。また、順編成、索引順編成、VSAM (KSDS, ESDS) 及び区分編成については可変長レコードも扱う。

### 1.3 データセットの印刷機能

データセットの内容をバッチ処理で印刷する。扱えるデータセットの編成、形式は、1.2 の更新機能に準ずる。

### 1.4 データセットの表示機能

データセットの内容を表示する。扱えるデータセットの編成、形式は、1.2 の更新機能に準ずる。

### 1.5 ユーティリティ機能

ユーティリティとして以下の機能がある。

#### 1) 再配置

データセットのレコードフォーマットの一部が変更になったような場合に有効な機能である。全く最初からデータを作成し直すことなく、すでに作成済のデータを生かして新しいデータセットを創成する。ただし、扱えるレコード形式は、固定長だけである。

#### 2) アナライズ情報削除

不要となったコピー句の解析情報を削除する機能である。

#### 3) コピー句解析

創成/更新/印刷/表示処理で指定したコピー句は LINDA で解析しているが、仮原文付きのコピー句は各処理でエラー (コピー句解析誤りのメッセージを表示) となる。このようなコピー句を解析し、各処理で使用できるようにする機能である。

#### 4) YPS 構造体解析

YPS/COBOL で記述されたインクルード句 (以降 YPS 構造体と呼ぶ) をコピー句に変換し、各処理で使用できるようにする機能である。

#### 5) データ転送

順編成データセットのデータをパソコンに転送し、Windows 版 LINDA のホストデータ変換ツールで変換することで使用できるようにする機能である。

#### 1.6 アイテムセレクト機能

画面やリストにデータセットの内容を出力する際に、レコード番号やキーでレコード検索を行ったり、特定の項目選択を行うことができる。

#### 1.7 ユーザ出口機能

データセット更新時に、更新ログ情報を取得することができる。

#### 1.8 Web 連携機能

Web ブラウザからデータ抽出・表示を行うことができる。

## 2. 構成プログラム

このソフトウェアは表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項 番	分 類	プログラム名	バージョン・レベル	備 考
1	起動時に指定するプログラム	JSMLFEND	V24L20	画面消去プログラム
		JSMLTERM	V24L20	端末種別取得プログラム
		JSMLPRF0	V24L20	プロフィール取得プログラム
		JSMLM001	V24L20	メインプログラム
2	セットアップ用プログラム	JSMLXISS	V24L20	アイテムライブラリ (ISAM) のセットアップ用プログラム
		JSMLXVSS	V24L20	アイテムライブラリ (VSAM) のセットアップ用プログラム
		JSMLXMSG	V24L20	メッセージデータセット (ISAM) のセットアップ用プログラム
		JSMLXANL	V24L20	アナライズファイルのセットアップ用プログラム
3	バッチ処理プログラム	JSMLP001	V24L20	印刷処理用プログラム
		JSMLU020	V24L20	再配置処理用プログラム
		JSMLU104	V24L20	YPS 構造体解析処理用プログラム
		JSMLDICT	V24L20	日本語名標辞書変換プログラム
		JSMLU030	V24L20	アナライズファイル変換プログラム
		JSMLU060	V24L20	アナライズ情報登録プログラム
		JSMLU041	V24L20	索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム
		JSMLU042	V24L20	VSAMアイテムライブラリ変換プログラム
		JSMLU110	V24L20	アイテムライブラリ編成変換プログラム
4	Web 連携機能プログラム	JSMLWM01	V24L20	Web 連携プログラム

### 3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示す通りである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニユアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/TF-LINDA 解説書	J1M0-9141-02	

### 4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような機能追加及び改良が行なわれている。

#### 4.1 V20L31で行われた機能追加・改良点

##### 4.1.1 表示機能の追加

レコードの内容を、更新機能と同じ形式で表示する機能を追加した。

##### 4.1.2 ユーティリティ機能の追加

次の二つの機能を追加しユーティリティ機能とした。

###### － 再配置機能

従来の再配置機能と同じではあるが、指定可能なデータセット編成を増やすなど、サポート範囲を拡大した。

###### － アナライズ情報削除機能

アナライズファイル内の不要となったコピー句解析情報を削除する機能を追加した。

##### 4.1.3 索引順編成データセットのサポート

LINDA で索引順編成データセットの更新、印刷及び表示をサポートした。なお、創成はサポートしていない。

##### 4.1.4 日本語変換コピー句のサポート

創成、更新、印刷及び表示の各機能で指定したコピー句の英数字項目を、日本語名標辞書を使用して画面やリストに日本語で表示可能とした。なお、使用できる日本語名標辞書については適用マニュアルを参照されたい。

##### 4.1.5 AIM 配下データセットのサポート

AIM 管理下で使用するデータセットの更新、印刷及び表示をサポートした。（扱えるデータセットは、VSAM、相対編成データセットだけである。）

##### 4.1.6 コマンドの追加

更新・表示機能で有効な次のコマンドを追加した。

－ LASTREC コマンド : データセットの最終レコードを表示する。

－ RADDコマンド : 可変長の順編成・区分編成に対して、初期レコードを追加する。

－ KEYREAD コマンド : オペランドで指定したキーの値を持つレコードを表示する。

##### 4.1.7 印刷処理のバッチ化

データセット名の指定などは、会話形式で行い、実際の印刷処理はバッチ化することにより、会話処理のレスポンスの向上をはかった。

##### 4.1.8 コピー句解析方法の改良

指定したコピー句をCOBOL85 コンパイラで解析し、解析情報をデータセット（アナライズファイルと呼ぶ）に蓄え、次回からの解析が不要となり、レスポンスが向上した。



#### 4.2 V20L32で行われた機能追加・改良点

##### 4.2.1 コピー句解析機能

ユーティリティにコピー句解析機能を追加した。本機能により、制限となっていたコピー句の使用を可能とした。

#### 4.3 V20L33で行われた機能追加・改良点

##### 4.3.1 日本語名標辞書による項目名の日本語表示強化

日本語名標辞書による項目の日本語変換について以下の機能をサポートした。

- － 単語の長さによる分割 : 属性定義で指定した単語長単位に変換できる。
- － ハイフン(－)による分割 : 項目のハイフンで区切られた単位に変換できる。
- － 共通部の指定 : 共通部として変換対象外とする文字数を指定できる。

##### 4.3.2 AIM VSAM更新時の機能強化

AIM VSAM更新中、次レコード又は前レコードを表示させる時に、トランザクションを区切るオプションをサポートした。

#### 4.4 V20L34で行われた機能追加・改良点

##### 4.4.1 COBOL85 V12L20対応

COBOL85 V12L20のコピー句の使用を可能とした。

#### 4.5 V21L10で行われた機能追加・改良点

##### 4.5.1 YPS 構造体解析機能

ユーティリティにYPS 構造体解析機能を追加した。本機能により、YPS 構造体をコピー句に変換して使用できる。

#### 4.6 V21L20で行われた機能追加・改良点

##### 4.6.1 ユーザ出口機能

データセット更新時に、更新ログ情報の取得を可能とした。

##### 4.6.2 KEYREAD コマンドの機能強化

近似値検索を可能とした。

##### 4.6.3 順編成・区分編成のサポート強化

順編成・区分編成のリストファイル及び可変長の区分編成に対して、更新、印刷及び表示を可能とした。

#### 4.7 V22L10で行われた機能追加・改良点

##### 4.7.1 マルチクラスタ環境における運用

OSIV/MSPスケラブルSCMPシステムにおけるマルチクラスタ運用を可能とした。

##### 4.7.2 セットアップ用ジョブ制御文及びコマンドプロシジャの一括修正用ジョブ制御文の提供

セットアップ用ジョブ制御文及びコマンドプロシジャのデータセット名、ボリューム通し番号などの一括修正を可能とした。

#### 4.8 V23L10で行われた機能追加・改良点

##### 4.8.1 データ転送機能

ユーティリティにデータ転送機能を追加した。本機能により、順編成データセットのデータをパソコンに転送し、Windows 版LINDA のホストデータ変換ツールで変換することで使用できる。

#### 4.8.2 HEX ファイルダンプ出力機能

印刷機能でダンプ形式によるデータの印刷を可能とした。

#### 4.8.3 コピー句なしによるデータ操作

固定長の順編成・区分編成に対して、コピー句なしによる更新、印刷及び表示を可能とした。

#### 4.8.4 OCCURS DEPENDING ON 句の繰返し数によるレコード追加

可変長の順編成・区分編成・VSAM (KSDS) に対して、OCCURS DEPENDING ON 句のあるコピー句を使用して、OCCURSの繰返し数に従ったレコードの追加を可能とした。

#### 4.9 V24L10で行われた機能追加・改良点

##### 4.9.1 コピー句によるレコード抽出条件の入力

コピー句の複数の項目を使用して比較演算子によるレコード抽出条件の指定を可能とした。

##### 4.9.2 Web 連携機能

Web ブラウザからのデータ抽出・表示を可能とした。

#### 4.10 V24L20で行われた機能追加・改良点

##### 4.10.1 PFキーの定義変更

属性定義においてPFキーの機能配置を変更できるようにした。

本書に記載されている「PFキー」は、標準の機能 (UPはPF7 , DOWNはPF8 , END はPF3 , RETURNはPF12など) で説明している。

##### 4.10.2 画面スクロールの行数指定

データ画面、アイテム名選択画面、メンバ選択画面およびYPS 構造体メンバ選択画面において、行単位のスクロールを可能とした。

##### 4.10.3 削除レコードの復元

RERASEコマンドにより削除されたレコードの復元を行うRRESTOREコマンドを追加した。

##### 4.10.4 区分編成データセットのメンバ名表示

区分編成データセットのデータ画面において、データセット名の表示欄にメンバ名の表示を追加した。

##### 4.10.5 近似値検索の解除

KEYREAD コマンドにおいて、近似値検索の解除を行うオペランドを追加した。

##### 4.10.6 HELP画面の見直し

HELP画面の構成および説明を見直した。

##### 4.10.7 レコード初期化データ入力画面の見直し

レコード初期化データ入力画面 (可変長) の説明を見直した。

##### 4.10.8 デッドロック発生時の画面遷移の変更

デッドロックが発生した場合、データ画面に“デッドロック発生”のメッセージが表示され、レコード選択メニュー画面に戻る以外でできなかったため、デッドロックが発生した場合には、レコード選択メニュー画面に自動で遷移し“デッドロック発生”のメッセージを表示するように変更した。

## 5. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

### 5.1 システム移行が伴う場合

システム移行が伴うLINDA の移行においては、次の注意事項がある。

- － ADJUSTルーチンライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定しなければならない。  
静的結合用のレジデントライブラリを指定するとOC4-000 で異常終了する場合がある。
- － CKD-EXコマンドサポートのファイル制御装置（F1700Eなど）を使用する場合、索引順編成のアイテムライブラリを使用することができない。V20L32以降の索引順編成アイテムライブラリを流用する場合には、提供ジョブを用いて、フォーマットを変換した後、VSAMに編成を変換する。

### 5.2 流用可能なLINDA の資産

LINDA には次の資産が必要である。

- － セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ
- － LINDA ロードモジュールライブラリ
- － 英語画面用IPF 画面定義体ライブラリ
- － 日本語画面用IPF 画面定義体ライブラリ
- － 英語メッセージデータセット
- － 日本語メッセージデータセット
- － 起動用コマンドプロシジャ
- － アナライズファイル
- － アイテムライブラリ

このうち、以前のバージョン・レベルから流用可能な資産は以下の通りである。

#### 5.2.1 V20L20以前からの移行

流用可能なLINDA の資産はない。

#### 5.2.2 V20L31からの移行

a) 提供の変換ジョブによりフォーマットを変換することで流用可能な資産

- － アナライズファイル  
アナライズファイル変換プログラム 参照 → 11
- － アイテムライブラリ（索引順編成の場合は、流用不可）  
索引順編成：流用不可

VSAM：VSAMアイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 14

#### 5.2.3 V20L32又はV20L33からの移行

a) 提供の変換ジョブによりフォーマットを変換することで流用可能な資産

- － アナライズファイル  
アナライズファイル変換プログラム 参照 → 11
- － アイテムライブラリ  
索引順編成：索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 13  
VSAM：VSAMアイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 14

#### 5.2.4 V20L34～V21L20からの移行

##### a) そのまま流用可能な資産

- － アナライズファイル

##### b) 提供の変換ジョブによりフォーマットを変換することで流用可能な資産

- － アイテムライブラリ

索引順編成：索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 13

VSAM：VSAMアイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 14

#### 5.2.5 V22L10又はV23L10からの移行

##### a) そのまま流用可能な資産

- － アナライズファイル
- － 起動用コマンドプロシジャ

##### b) 提供の変換ジョブによりフォーマットを変換することで流用可能な資産

- － アイテムライブラリ

索引順編成：索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 13

VSAM：VSAMアイテムライブラリ変換プログラム 参照 → 14

#### 5.2.6 V24L10以降からの移行

##### a) そのまま流用可能な資産

- － 起動用コマンドプロシジャ
- － アナライズファイル
- － アイテムライブラリ

### 5.3 仕様変更に伴う注意事項

#### 5.3.1 V20L20以前からの移行

- － REPLACING 句を使ったコピー句を使用する場合は、ユーティリティのコピー句解析処理を行ってから通常の処理を行う。
- － LINDA の画面からコピーライブラリ名を指定できなくなった。  
代替方法としては、コピーライブラリをLINDA 起動用コマンドプロシジャのLISYSLIBに連結指定するか、使用するコピーライブラリ名を起動時に可変に指定できるようにパラメタを追加する方法がある。

#### 5.3.2 V20L31～V22L10からの移行

- － OCCURS DEPENDING ON 句があり、繰返し数を示す項目のないコピー句を使用して可変長順編成の創成を行う場合、データ画面を表示した直後の繰返し数の初期値を以下のように変更した。  
変更前： コピー句で定義されている最大繰返し数  
変更後： レコード初期化データ入力画面の指示により作成されたレコードのうち最後に作成されたレコードの繰返し数

#### 5.3.3 V23L10以降からの移行

仕様変更に伴う注意事項はない。

## 6. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要なソフトウェアは以下の通りである。

表6.1 ソフトウェア組合せ条件

必要ソフトウェア	適用V / L	必須条件		備考
		必須	任意	
AF II	10 / 10以降			
COBOL85	12 / 10以降			
IPF	10 / 21以降			緊急修正No.AL27945 が吸収されていること。
ソートマージ	10 / 30以降			
ADJUST	10 / 50以降			日本語画面を使用または日本語データを扱う場合必要。 V10L50の場合はPTF L89061以降にする。
JEF 基本辞書	01 / 92以降			日本語画面を使用または日本語データを扱う場合必要。
GEM	10 / 30以降			コピー句またはYPS 構造体がGEM の場合必要。
YPS/COBOL	11 / 10以降			YPS 構造体解析を行う場合必要。
AIM	12 / 30以降			AIM 配下のデータセットを使用する場合必要。
PFD	10 / 30以降			LINDA からPFD を呼び出す場合必要。

### [ 補足事項 ]

Web 連携機能を使用する場合の必要関連ソフトウェアについては、CD-ROM内に格納されているソフトウェア説明書の「ソフトウェア組合せ条件」を参照されたい。

## 7. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表7.1 から表7.2 に示す通りである。

また、Windows 上で使用するWeb 連携機能はCD-ROMで提供する。Web 連携機能の提供媒体内容については、CD-ROM内に格納されているソフトウェア説明書の「製品構成」を参照されたい。

表7.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
S L	L I N V 2 4	8	1

表7.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	LINDA.JCL	セットアップ用ジョブ制御文（ひな型JCL）
2	LINDA.LOAD	ロードモジュール
3	LINDA.IPFALP	英語画面用IPF 画面定義体ライブラリ
4	LINDA.IPFJEF	日本語画面用IPF 画面定義体ライブラリ
5	LINDA.IN.MSGALP	セットアップ用英語メッセージデータセット
6	LINDA.IN.MSGJEF	セットアップ用日本語メッセージデータセット
7	LINDA.CLIST	起動用コマンドプロシジャ
8	LINDA.LOAD2	ロードモジュール2（AIM が導入されていないシステムの場合に使用）

## 8. D A S D所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのD A S D所要量の見積りは表8.1 に示す通りである。

表8.1 D A S D所要量

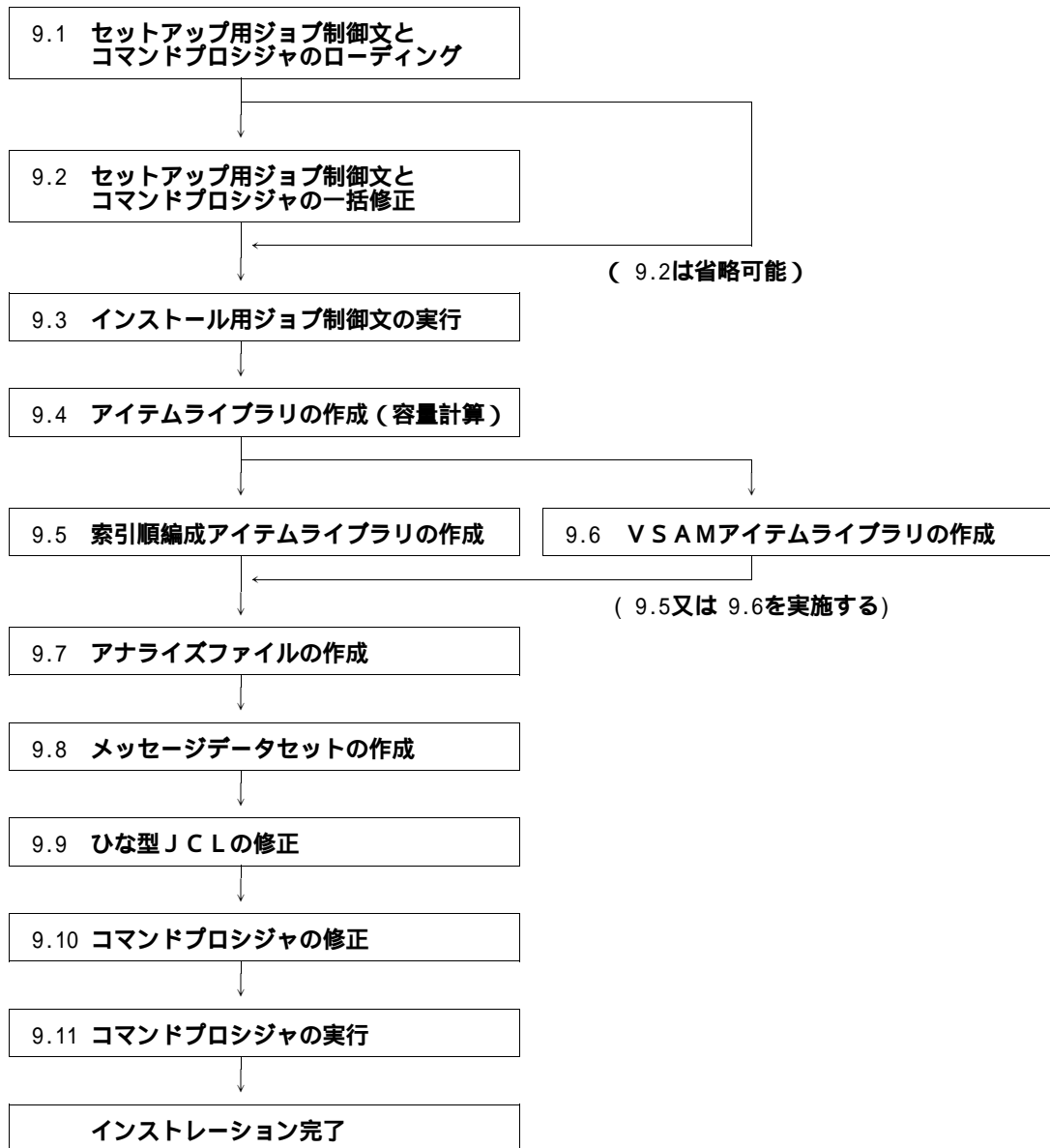
単位は各々次の通り  
 レコード長，ブロック長：バイト  
 ディレクトリ：ブロック  
 D A S D所要量：トラック又はシリンダ（単位省略部分はトラック）

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更 可否		ディレ クトリ	D A S D所要量		
					F6421	F6425	
1	LINDA. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	3	8	5	
2	LINDA. LOAD	可	区分編成 U — 6144	35	128	85	
3	LINDA. IPFALP	可	区分編成 FB 255 7650	10	38	25	
4	LINDA. IPFJEF	可	区分編成 FB 255 7650	10	38	25	
5	LINDA. MSGALP	可	索引順編成又は V S A M  FB 160 3200	—	1 CYL	1 CYL	メッセージセットアップ用ジョブで生成 する  上段：索引順編成 下段：V S A M
				—	1	1	
6	LINDA. MSGJEF	可	索引順編成又は V S A M  FB 160 3200	—	1 CYL	1 CYL	メッセージセットアップ用ジョブで生成 する  上段：索引順編成 下段：V S A M
				—	1	1	
7	LINDA. CLIST	可	順編成 FB 80 3120	—	2	1	
8	LINDA. ANALIB	可	区分編成 VB 8512 17036	ユーザで指定			インストールの手引参照  参照 → 9.7
9	LINDA. ITMLIB. VSAM又は ISAM	可	索引順編成又は V S A M  F 3860 3860	ユーザで指定			インストールの手引参照  参照 → 9.4

## 9. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

インストール手順は以下のフローどおり実施する。数字は、以降に示す章・節を表す。





## 9.1 セットアップ用ジョブ制御文とコマンドプロシジャのローディング

セットアップ用ジョブ制御文とコマンドプロシジャをDASDにローディングするために、図9.1 に示すようなJSECOPY とJSDGENERユーティリティのジョブ制御文を作成し実行する。

下線部は利用者ごとの可変部分であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名などは利用者の環境に合わせて変更する。

なお、これらのライブラリはLINDA 実行時に使用する。したがって、作業用ボリュームに作成したり、インストール後削除してはならない。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
// EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.JCL,LABEL=(1,SL),
// VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=LINDA.JCL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,1,5)),VOL=SER=SF1VOL ①
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
// EXEC PGM=JSDGENER
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.CLIST,LABEL=(7,SL),
// VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=LINDA.CLIST,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=SF1VOL ②
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図9.1 セットアップ用ジョブ制御文とコマンドプロシジャローディング用のジョブ制御文例

- ① セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名
- ② LINDA 起動用コマンドプロシジャ名

## 9.2 セットアップ用ジョブ制御文とコマンドプロシジャの一括修正

9.1 でローディングしたセットアップ用ジョブ制御文の各メンバとコマンドプロシジャに記述するデータセット名とボリューム通し番号をTSS のEDIT機能によって一括修正する。なお、一括修正を省略し、9.3 より実施することも可能である。

セットアップ用ジョブ制御文とコマンドプロシジャの一括修正を行う場合は、セットアップ用ジョブ制御文のメンバ '@CHGALL1' 及び '@CHGALL2' を以下の手順で実行する。

- (1) '@CHGALL1' の修正、保存、実行（注）
- (2) '@CHGALL2' の修正（ '@CHGALL1' による修正の確認を含む）、保存、実行（注）

注) '@CHGALL1'、 '@CHGALL2' 及び一括修正対象の各メンバを同一データセットで提供しているため、 '@CHGALL1' 又は '@CHGALL2' の修正、保存後はセットアップ用ジョブ制御文の使用をいったん終了し、コマンドライン又はREADY 状態から実行する。（セットアップ用ジョブ制御文の '@CHGALL1' 又は '@CHGALL2' から直接実行すると、データセット使用中となり変換後の保存ができない。）

図9.2 に '@CHGALL1' のジョブ制御文を示す。下線部及び括弧付き数字は修正箇所であり、括弧付き数字は説明の番号に対応する。また、ジョブ名などは利用者の環境に合わせて変更する。

なお、利用者側で修正不要と判断する文字列がある場合は該当のCHANGEコマンドを削除する。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW ,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*
//*****
//*      CHANGE JCL MEMBERS AND CLIST PART1      *
//*****
//CHG1      EXEC PGM=KEQEFT01,REGION=1024K
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD *
EDIT '(1)LINDA.JCL(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/(2)VOLUME/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/(3)LINDA.LOAD/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN02#/(4)LINDA.IPFALP/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN03#/(5)LINDA.IPFJEF/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN04#/(6)LINDA.IN.MSGALP/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN05#/(7)LINDA.IN.MSGJEF/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN06#/(8)SYS1.COBLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN07#/(9)LINDA.ITEMLIB.ISAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN08#/(10)USER.UCAT/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN09#/(11)LINDA.ITEMLIB.VSAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN10#/(12)LINDA.ITEMLIB.DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN11#/(13)LINDA.ITEMLIB.IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN12#/(14)LINDA.ANALIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN13#/(15)LINDA.MSGALP/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN14#/(16)LINDA.MSGJEF/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN15#/(17)LINDA.MSGALP.DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN16#/(18)LINDA.MSGALP.IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN17#/(19)LINDA.MSGJEF.DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN18#/(20)LINDA.MSGJEF.IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN19#/(21)YPS.IMAGELIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN20#/(22)SYS1.YPS.LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN21#/(23)YPS.YSLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN22#/(24)YPS.YJLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN23#/(25)LINDA.JCL/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN24#/(26)LINDA.YPSCOPY/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN25#/(27)USER.COPY/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN26#/(28)SYS1.COB.LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN27#/(29)SYS1.ADJ.LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN28#/(30)SYS1.IPF.LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN29#/(31)USER.RAN.NDICT/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN30#/(32)USER.RAN.NDICT.DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN31#/(33)USER.RAN.NDICT.IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN32#/(34)USER.SEQ.NDATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN33#/(35)LINDA.CLIST/ALL
END SAVE
/*
//

```

図9.2 '@CHGALL1' のジョブ制御文

- (1) セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名
- (2) LINDA で使用するデータセットのボリューム通し番号
- (3) LINDA ロードモジュールライブラリ名
- (4) 英語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名
- (5) 日本語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名
- (6) セットアップ用英語メッセージデータセット名
- (7) セットアップ用日本語メッセージデータセット名
- (8) COBOL85 ライブラリ名
- (9) 索引順編成アイテムライブラリ名
- (10) ユーザカタログ名
- (11) VSAMアイテムライブラリ名

- (12) VSAMアイテムライブラリ・データ部名
- (13) VSAMアイテムライブラリ・インデックス部名
- (14) アナライズファイル名
- (15) VSAM又は索引順編成英語メッセージデータセット名
- (16) VSAM又は索引順編成日本語メッセージデータセット名
- (17) VSAM英語メッセージデータセット・データ部名
- (18) VSAM英語メッセージデータセット・インデックス部名
- (19) VSAM日本語メッセージデータセット・データ部名
- (20) VSAM日本語メッセージデータセット・インデックス部名
- (21) YPS/COBOL 用イメージライブラリ名
- (22) YPS/COBOL コンパイラ名
- (23) YPS/COBOL 用外部構文定義仕様書名
- (24) YPS/COBOL 用外部日本語名標宣言仕様書名
- (25) セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名
- (26) YPS 構造体解析のコピー句出力用ライブラリ名
- (27) 利用者資産のコピーライブラリ名
- (28) COBOL85 コンパイラ名
- (29) ADJUSTルーチンライブラリ名 (動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。)
- (30) IPF ルーチンライブラリ名
- (31) 日本語名標辞書データ変換のランダムアクセス形式日本語名標辞書名 参照 → 10
- (32) 日本語名標辞書データ変換のランダムアクセス形式日本語名標辞書名のデータ部名
- (33) 日本語名標辞書データ変換のランダムアクセス形式日本語名標辞書名のインデックス部名
- (34) 日本語名標辞書データ変換の順アクセス形式日本語名標辞書名
- (35) LINDA 起動用コマンドプロシジャ名

'@CHGALL1'の修正例を以下に示す。

```

:
EDIT '(1)LINDA.JCL(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/(2)VOLUME/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/(3)LINDA.LOAD/ALL
:
↓
EDIT 'USER01.LINDA.JCL(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/USR100/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/USER01.LINDA.LOAD/ALL
:

```

図9.3 に '@CHGALL2' のジョブ制御文を示す。ジョブ名などの下線部は修正箇所であり、利用者の環境に合わせて変更する。

# で囲まれた文字列は '@CHGALL1' の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

なお、利用者側で修正不要と判断する文字列がある場合は該当のCHANGEコマンドを削除する。

```
//?JOB-NO_ JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*
//*****
//*      CHANGE JCL MEMBERS AND CLIST PART2      *
//*****
//CHG2    EXEC PGM=KEQEFT01,REGION=1024K
//SYSTSPT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD *
EDIT '#DSN23#(INSTALL)' +
  OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSV01@/#DSV01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN01@/#DSN01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN02@/#DSN02#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN03@/#DSN03#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN04@/#DSN04#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN05@/#DSN05#/ALL
END SAVE

~

EDIT '#DSN23#(PROFILE)' +
  OLD CLIST
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN01@/#DSN01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN06@/#DSN06#/ALL
END SAVE
EDIT '#DSN31#' +
  OLD CLIST
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN01@/#DSN01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN09@/#DSN09#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN12@/#DSN12#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN25@/#DSN25#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN23@/#DSN23#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN03@/#DSN03#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN14@/#DSN14#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN02@/#DSN02#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN13@/#DSN13#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN06@/#DSN06#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN26@/#DSN26#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN27@/#DSN27#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN28@/#DSN28#/ALL
END SAVE
/*
//
```

図9.3 '@CHGALL2' のジョブ制御文

### 9.3 インストール用ジョブ制御文の実行

インストール用ジョブ制御文をインストールするシステムに応じて修正して実行する。

インストール用ジョブ制御文はセットアップ用ジョブ制御文のメンバ'INSTALL'である。

図9.4 にインストール用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

(注意事項) AIMを導入していないシステムにLINDA をインストールする時は、図9.4 インストール用ジョブ制御文の(注)の//を/\*\* に修正すること。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//***** LOAD MODULE *****
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.LOAD,LABEL=(2,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN01@_          ①
//        DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//        UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(85,1,35),RLSE),VOL=SER=@DSV01@
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//***** IPFMENU A/N *****
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.IPFALP,LABEL=(3,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN02@_          ②
//        DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//        UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(25,1,10),RLSE),VOL=SER=@DSV01@
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//***** IPFMENU JAPANESE *****
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.IPFJEF,LABEL=(4,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN03@_          ③
//        DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//        UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(25,1,10),RLSE),VOL=SER=@DSV01@
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//***** ERROR MESSAGE A/N *****
//STEP04 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=1024K
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.IN.MSGALP,LABEL=(5,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN04@_          ④
//        DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//        UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=@DSV01@
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//***** ERROR MESSAGE JAPANESE **
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=1024K
//SYSUT1 DD UNIT=MT,DSN=LINDA.IN.MSGJEF,LABEL=(6,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN05@_          ⑤
//        DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//        UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1)),VOL=SER=@DSV01@
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
// (注)
//*** AIMが導入されていない場合実行 ***
//***** LOAD MODULE 2 *****
//STEP07 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//INPUT DD UNIT=MT,DSN=LINDA.LOAD2,LABEL=(8,SL),
//        VOL=SER=LINV24,DISP=(,PASS)
//OUTPUT DD DSN=@DSN01@_DISP=OLD          ①
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY OUTDD=OUTPUT,INDD=((INPUT,R))
/*
//
```

図9.4 インストール用ジョブ制御文

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ② 英語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名
- ③ 日本語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名
- ④ セットアップ用英語メッセージデータセット名
- ⑤ セットアップ用日本語メッセージデータセット名

9.4 アイテムライブラリの作成（容量計算）

アイテムライブラリは、プロジェクト単位に索引順編成又はVSAM（KSDS）で作成する。

ただし、CKD-EXコマンドサポートのファイル制御装置（F1700E等）を使用の際は、VSAMでアイテムライブラリを作成しなければならない。

スペース量は次の計算式で求める。また、DASD機種により、下の係数を掛ける。図9.5 にスペース量計算式、表9.1 に装置タイプと係数を示す。ただし、指定するスペース量はデータ部+インデックス部とする。よって、索引順編成の場合は最低2CYLは確保すること。

① VSAMの場合（小数点以下切上げ）

$$\text{データ部} = \frac{\text{レコード件数}}{116} \times n(\text{CYL}) \quad \text{インデックス部} = \frac{\text{レコード件数}}{2210} \times n(\text{TRK})$$

② ISAMの場合（小数点以下切上げ）

$$\text{データ部} = \frac{\text{レコード件数}}{144} \times n(\text{CYL}) \quad \text{インデックス部} = \frac{\text{データ部のシリンダ数}}{56 \times m} \times n(\text{CYL})$$

（データ部はプライム領域）  
（mはDASD1シリンダ当たりのトラック数）

③ レコード件数算出式

$$\text{使用コピー句数} \times \text{1コピー句当たりの平均01項目数} \times \text{テストケース数} + \text{LINDAを使用するユーザーID数}$$

図9.5 アイテムライブラリスペース量計算式

表9.1 装置タイプと係数

装置タイプ	係数 (n)	
	TRKの場合	CYLの場合
F6421	1.5	1.4
F6425	1.0	1.0

## 9.5 索引順編成アイテムライブラリの作成

セットアップ用ジョブ制御文のメンバ 'JSMLXISS' (図9.6) を修正して実行する。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW,CLASS=?,MSGCLASS=?  
//*****  
//* SIMPLIA/TF-LINDA ITEMLIB(ISAM) SETUP JCL *  
//*****  
// EXEC PGM=JSMLXISS,REGION=1024K  
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR  
//          DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR  
//LIITMLIB DD DSN=@DSN07@  
// SPACE=(CYL,(5)),UNIT=SYSDA,  
// DISP=(,CATLG),VOL=SER=@DSV01@,  
// DCB=(DSORG=IS,LRECL=3860,BLKSIZE=3860,RECFM=F,KEYLEN=76,RKP=1)  
//
```

図9.6 索引順編成アイテムライブラリ作成用ジョブ制御文

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ② COBOL85 ライブラリ名(注)
- ③ 索引順編成アイテムライブラリ名
- ④ 算出スペース量

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 9.6 VSAMアイテムライブラリの作成

セットアップ用ジョブ制御文のメンバ 'JSMLXVSS' (図9.7) を修正して実行する。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW, CLASS=?, MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA ITEMLIB(VSAM) SETUP JCL *
//*****
//JOB CAT DD DSN=@DSN08, DISP=SHR ----- ①
//DEF CL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
  DEFINE CLUSTER -
    (NAME(@DSN09)) - ----- ②
    INDEXED -
    VOLUMES(@DSV01) - ----- ③
    CYLINDERS(3) -
    RECORDSIZE(3860 3860) -
    KEYS(76 0) -
    IMBED -
    UNIQUE -
    SHAREOPTIONS(4 4) -
    DATA -
    (NAME(@DSN10)) - ----- ④
    INDEX -
    (NAME(@DSN11)) ----- ⑤
/*
//SETUP EXEC PGM=JSMLXVSS, REGION=1024K
//STEPLIB DD DSN=@DSN01, DISP=SHR ----- ⑥
// DD DSN=@DSN06, DISP=SHR ----- ⑦
//LIITMLIB DD DSN=@DSN09, DISP=OLD ----- ②
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図9.7 VSAMアイテムライブラリ作成用ジョブ制御文

- ① ユーザカタログ名 (マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ② VSAMアイテムライブラリ名
- ③ 算出スペース量
- ④ VSAMアイテムライブラリ・データ部名
- ⑤ VSAMアイテムライブラリ・インデックス部名
- ⑥ LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ⑦ COBOL85 ライブラリ名 (注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は

「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。



## 9.7 アナライズファイルの作成

アナライズファイルは、プロジェクト単位に区分編成ファイルで作成する。

スペース量は、表9.2 に示す計算式で求める。また、DASD機種により、表9.1 の係数を掛ける。

表9.2 アナライズファイルスペース量計算式

スペース量 計算式	[ データ部 ]	[ ディレクトリ部 ]
		$\frac{\text{コピー句数} \times \text{平均項目数}}{250} \times n (\text{TRK})$

作成方法は、セットアップ用ジョブ制御文のメンバ 'JSMLXANL' (図9.8) を修正して実行する。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA ANALYSIS DATASET CREATION JCL *
//*****
// EXEC PGM=JSMLXANL,REGION=768K
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ②
//LIITMLIB DD DSN=@DSN12@ _____ ③
// VOL=SER=@DSV01@,
// DISP=(NEW,CATLG),SPACE=(TRK,(20,5,10)),UNIT=SYSDA, _____ ④
// DCB=(DSORG=PO,LRECL=8512,BLKSIZE=17036,RECFM=VB)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図9.8 アナライズファイル作成ジョブ制御文

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ② COBOL85 ライブラリ名(注)
- ③ アナライズファイル名
- ④ 算出スペース量

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は

「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 9.8 メッセージデータセットの作成

インストールした順編成のセットアップ用英語メッセージデータセット及びセットアップ用日本語メッセージデータセットを入力として、索引順編成又はVSAMで英語メッセージデータセット及び日本語メッセージデータセットを作成する。

ただし、CKD-EXコマンドサポートのファイル制御装置（F1700E等）を使用の際は、VSAMで英語メッセージデータセット及び日本語メッセージデータセットを作成しなければならない。

索引順編成メッセージセットアップ用ジョブ制御文のメンバ 'JSMLXMSG'（図9.9）又はVSAMメッセージセットアップ用ジョブ制御文のメンバ 'JSMLVMSG'（図9.10）を修正して実行する。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。また、ジョブ名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW ,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA MESSAGE DATASET SETUP (A/N) *
//*****
// EXEC PGM=JSMLXMSG,PARM=NEW,REGION=1024K
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ①
//          DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ②
//INF      DD DSN=@DSN04@,DISP=SHR _____ ③
//MSGLIB  DD DSN=@DSN13@. _____ ④
// SPACE=(CYL,(1)),UNIT=SYSDA,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=@DSV01@,
// DCB=(LRECL=160,BLKSIZE=3200,RECFM=FB,KEYLEN=8,RKP=0,DSORG=IS)
//SYSOUT  DD SYSOUT=*
//*
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA MESSAGE DATASET SETUP (JAPANESE) *
//*****
// EXEC PGM=JSMLXMSG,PARM=NEW,REGION=1024K
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ①
//          DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ②
//INF      DD DSN=@DSN05@,DISP=SHR _____ ⑤
//MSGLIB  DD DSN=@DSN14@. _____ ⑥
// SPACE=(CYL,(1)),UNIT=SYSDA,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=@DSV01@,
// DCB=(LRECL=160,BLKSIZE=3200,RECFM=FB,KEYLEN=8,RKP=0,DSORG=IS)
//SYSOUT  DD SYSOUT=*
//
```

図9.9 索引順編成メッセージセットアップ用ジョブ制御文

```

//?JOB-NO JOB ?PSW ,CLASS=?,MSGCLASS=?
//JOB CAT DD DSN=@DSN08@,DISP=SHR
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA MESSAGE DATASET SETUP (VSAM) *
//*****
//DEFCL EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(@DSN13@) -
INDEXED KEYS(8 0) UNIQUE -
VOLUME(@DSV01@) TRACKS(1 1) -
RECORDSIZE(160 160)) -
DATA(NAME(@DSN15@)) -
INDEX(NAME(@DSN16@))
DEFINE CLUSTER -
(NAME(@DSN14@) -
INDEXED KEYS(8 0) UNIQUE -
VOLUME(@DSV01@) TRACKS(1 1) -
RECORDSIZE(160 160)) -
DATA(NAME(@DSN17@)) -
INDEX(NAME(@DSN18@))

/*
//REPRO EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//IN ALP DD DSN=@DSN04@,DISP=SHR
//OUT ALP DD DSN=@DSN13@,DISP=OLD
//IN JEF DD DSN=@DSN05@,DISP=SHR
//OUT JEF DD DSN=@DSN14@,DISP=OLD
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
REPRO IN FILE(IN ALP) OUT FILE(OUT ALP)
REPRO IN FILE(IN JEF) OUT FILE(OUT JEF)

/*
//

```

図9.10 VSAMメッセージセットアップ用ジョブ制御文

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ② COBOL85 ライブラリ名(注)
- ③ セットアップ用英語メッセージデータセット名
- ④ VSAM又は索引順編成英語メッセージデータセット名
- ⑤ セットアップ用日本語メッセージデータセット名
- ⑥ VSAM又は索引順編成日本語メッセージデータセット名
- ⑦ ユーザカタログ名(マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ⑧ VSAM英語メッセージデータセット・データ部名
- ⑨ VSAM英語メッセージデータセット・インデックス部名
- ⑩ VSAM日本語メッセージデータセット・データ部名
- ⑪ VSAM日本語メッセージデータセット・インデックス部名

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 9.9 ひな型 JCL の修正

印刷処理，再配置処理，YPS 構造体解析処理でのバッチ実行用のひな型 JCL を修正する．ひな型 JCL は提供媒体からローディングしたセットアップ用ジョブ制御文内にある．

ひな型 JCL 一覧を表 9.3 に示す．

表 9.3 ひな型 JCL 一覧

メンバ名	用途	備考
LIPRINT	一般データセットの印刷処理で使用する．	図 9.11
LIPRINTA	AIM 配下のデータセットの印刷処理で使用する．	図 9.12 ~ 図 9.14
LIUTY01	再配置処理で使用する．	図 9.15
LIYPSCB	YPS 構造体解析処理で使用する．	図 9.16

図 9.11 にひな型 JCL (メンバ LIPRINT) の修正箇所を示す．下線部は修正箇所であり，図中の項番は説明の項番に対応する．

なお，@ で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される．文字列が正常に置換されているか確認し，必要があれば更に変更を加える．

```

//          EXEC PGM=JSMLP001,REGION=2048K
//*-----*
//* PRINT          JCL << SIMPLIA/TF-LINDA >>          *
//*-----*
//STEP CAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@                    _____ ①
//STEP LIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@                    _____ ②
//          DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@                    _____ ③
//LIANALIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN12@                    _____ ④
//LIWKPR T DD UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE),
//          DSN=%013
//LIOBJDS DD UNIT=%031,
//          DSN=%011,
//          VOL=SER=%021,
//          DISP=SHR
//SYSOUT  DD SYSOUT=%033
//LILIST  DD SYSOUT=%033
//

```

図 9.11 ひな型 JCL (LIPRINT) の修正箇所

- ① ユーザカタログ名 (マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ② LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ③ COBOL85 ライブラリ名 (注)
- ④ アナライズファイル名

注) 認定ライブラリとなっている場合は，指定してはならない．なお，認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい．

図9.12～図9.14にひな型 JCL (メンバ LIPRINTA) の修正箇所を示す。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。AIM のバージョンによって、修正方法が異なるので注意する。提供時は、図9.13 (AIM V12用) の状態である。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```
// EXEC PGM=JSMLP001,REGION=2048K
//*-----*
//* PRINT          JCL << SIMPLIA/TF-LINDA >> *
//*-----*
//STEP CAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@           ①
//STEP LIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@           ②
//          DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@           ③
//LIANALIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN12@           ④
//LIWKPR T DD UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE),
//          DSN=%013
//AIMPED  DD DSN=AIM1_DRCTLIB,SUBSYS=(AIM,%009),DISP=SHR ⑤
//SYSOUT  DD SYSOUT=%033
//LILIST  DD SYSOUT=%033
//
```

図9.12 ひな型 JCL (LIPRINTA) の修正箇所 (AIM V11用)

```
// EXEC PGM=JSMLP001,REGION=2048K
//*-----*
//* PRINT          JCL << SIMPLIA/TF-LINDA >> *
//*-----*
//STEP CAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@           ①
//STEP LIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@           ②
//          DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@           ③
//LIANALIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN12@           ④
//LIWKPR T DD UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE),
//          DSN=%013
//AIMPED  DD SUBSYS=(AIM,%009,%008),DISP=SHR ⑤
//SYSOUT  DD SYSOUT=%033
//LILIST  DD SYSOUT=%033
//
```

図9.13 ひな型 JCL (LIPRINTA) の修正箇所 (AIM V12用)

```
// EXEC PGM=JSMLP001,REGION=2048K
//*-----*
//* PRINT          JCL << SIMPLIA/TF-LINDA >> *
//*-----*
//STEP CAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@           ①
//STEP LIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@           ②
//          DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@           ③
//LIANALIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN12@           ④
//LIWKPR T DD UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE),
//          DSN=%013
//AIMPED  DD SUBSYS=(AIM,%009,%008,%006),DISP=SHR ⑤
//SYSOUT  DD SYSOUT=%033
//LILIST  DD SYSOUT=%033
//
```

図9.14 ひな型 JCL (LIPRINTA) の修正箇所 (AIM V20用)

- ① ユーザカタログ名 (マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ② LINDA ロードモジュールライブラリ名      ③ COBOL85 ライブラリ名 (注)
- ④ アナライズファイル名                      ⑤ AIMPED DD 文

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

図9.15にひな型JCL(メンバ LIUTY01)の修正箇所を示す。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//      EXEC PGM=JSMLU020,REGION=768K
//*-----*
//* REARRANGEMENT JCL << SIMPLIA/TF-LINDA >> *
//*-----*
//STEPCAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@           _____ ①
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@         _____ ②
//      DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@           _____ ③
//LIWKUTY DD DSN=%014,
//      UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE)
//LIOBJDS DD UNIT=%031,
//      DSN=%011,
//      VOL=SER=%021,
//      DISP=SHR
//LIINDS DD UNIT=%031,
//      DSN=%012,
//      VOL=SER=%022,
//      DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=%033
//

```

図9.15 ひな型JCL(LIUTY01)の修正箇所

- ① ユーザカタログ名(マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ② LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ③ COBOL85 ライブラリ名(注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

図9.16にひな型JCL(メンバ LIYPCB)の修正箇所を示す。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//*-----*
//*   YPS ENVIRONMENT CREATE JOB  << SIMPLIA/TF-LINDA >>   *
//*-----*
//*****
//*   << EXEC JSMLU104 >>   *
//*****
//*IMAGELIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN19@   _____ ①
//YPSCOB   EXEC PGM=JSMLU104,REGION=4096K
//STEPDAT DD DISP=SHR,DSN=@DSN08@   _____ ②
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=@DSN01@   _____ ③
//        DD DISP=SHR,DSN=@DSN06@   _____ ④
//        DD DISP=SHR,DSN=@DSN20@   _____ ⑤
//YMEMTBL DD DSN=%015,
//        UNIT=%031,DISP=(OLD,DELETE,DELETE)
//*
//*----- YPSプログラム 仕様書デ-タセット -----*
//SYSYIN DD DSN=%017,
//        VOL=SER=%027,
//        UNIT=%031,DISP=SHR
//*
//*----- 外部構文定義仕様書デ-タセット -----*
//SYSYLIB DD DSN=@DSN21@,DISP=SHR   _____ ⑥
//*
//*----- 外部日本語名標宣言仕様書デ-タセット -----*
//SYSYJLIB DD DSN=@DSN22@,DISP=SHR   _____ ⑦
//*
//*----- インクル-ド 仕様書デ-タセット -----*
//SYSYINC DD DSN=%017,
//        VOL=SER=%027,
//        UNIT=%031,DISP=SHR
//*
//*----- 翻訳オプション 指定デ-タセット -----*
//SYSYOPT DD DSN=@DSN23@(YPSOPT),DISP=SHR   _____ ⑧
//*
//*----- COBOL原始プログラムデ-タセット -----*
//SYSIN DD DSN=@DSN24@,DISP=SHR   _____ ⑨
//*
//*----- YPS翻訳リストデ-タセット -----*
//SYSYPRD DD SYSOUT=%033,FCB=STD3,CHARS=YPSA   _____ ⑩⑪
//*
//*----- メツセ-ジデ-タセット -----*
//SYSTEM DD SYSOUT=%033,FCB=STD3   _____ ⑩
//*
//SYSYUT1 DD UNIT=%031,DISP=NEW,
//        SPACE=(TRK,(9,9),RLSE)
//*
//SYSOUT DD SYSOUT=%033
//

```

図9.16 ひな型JCL(LIYPCB)の修正箇所

- ① YPS/COBOL 用イメージライブラリ名(必要ならば//\* を//に修正して指定する。)
- ② ユーザカタログ名(マスタカタログで管理する場合は省略可能)
- ③ LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ④ COBOL85 ライブラリ名(注)
- ⑤ YPS/COBOL コンパイラ名(注)
- ⑥ YPS/COBOL 用外部構文定義仕様書名(必要ならば//\* を//に修正して指定する。)
- ⑦ YPS/COBOL 用外部日本語名標宣言仕様書名(必要ならば//\* を//に修正して指定する。)

⑧ セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名

( 図9.17に示すようにメンバ'YPSOPT'で YPS/COBOL翻訳オプションを提供している。なお、各翻訳オプションの詳細は「YPS/COBOL コンパイラ使用手引書」を参照されたい。)

⑨ YPS 構造体解析のコピー出力用ライブラリ名

( 起動用コマンドプロシジャのコピーライブラリ名と一致させる。 参照 → 9.10 )

⑩ 用紙制御イメージ識別名 ( 8LPIになるように指定する。)

⑪ YPS 仕様書出力時の文字セット名

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

```
NOCHECK NOTURB STATIS LANGLVL(V11)
NOJOIN NOOBJECT FLAG(1) TERM NOYDCT NOLCHECK
NOCOMMENT PREFIX(JVV) NOUSING NOYPRINT NOXREF NOTEST NOCOVERAGE
APOST
INCDD
ANCONV
LINECOUNT(60)
YPSSRC(1)
```

図9.17 YPS/COBOL翻訳オプション (YPSOPT)



## 9.10 コマンドプロシジャの修正

LINDA を起動するためのコマンドプロシジャを図9.18に示す。下線部は修正箇所であり、図中の項番は説明の項番に対応する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

ユーティリティのYPS 構造体解析処理を行う場合は、コピー句出力用ライブラリを⑤コピーライブラリ名に指定するため、利用者資産のコピーライブラリを使用する場合は別にコマンドプロシジャを作成する。また、YPS 構造体とコピー句との同期を合わせるため、YPS 構造体解析で出力されたコピー句は直接修正するべきではない。

```

PROC 0 ITEM(VSAM) PSP(50) SSP(50) UNT(SYSDA)
CONTROL NOLIST
  ERROR DO
    RETURN
  END
  SET &MAXCC=0
  SET &LM=@DSN01@
  CALL '&LM(JSMLTERM)'
  IF &MAXCC =0 THEN DO
    SET &JEFP=ALP
    END
    ELSE DO
    SET &JEFP=JEF
    END
  CALL '&LM(JSMLFEND)'
  ALLOC DA('@DSN09@') +
  F(LIITMLIB) SHR
  ALLOC DA('@DSN12@') +
  F(LIANALIB) SHR
  ALLOC DA('@DSN25@') +
  F(LISYSLIB) SHR
  ALLOC DA('@DSN23@') +
  F(LIHINA) SHR
  ALLOC F(SYSOUT) DA(*) REU
  ALLOC F(LISYSPRT) DUMMY
  IF &JEFP=JEF THEN DO
    ALLOC DA('@DSN03@') +
    F(LIMENU) SHR
    ALLOC DA('@DSN14@') +
    F(LIMSGLIB) SHR
  END
  ELSE DO
    ALLOC DA('@DSN02@') +
    F(LIMENU) SHR
    ALLOC DA('@DSN13@') +
    F(LIMSGLIB) SHR
  END
  LIB ('@DSN06@' +
  '@DSN26@' +
  '@DSN27@' +
  '@DSN28@')
  CALL '&LM(JSMLPRFO)' 'TL'
  CALL '&LM(JSMLM001)' '&JEFP,HOLD,&UNT,N,&SYSUID,&ITEM,&PSP,&SSP'
  LIB
  FREE F(LIITMLIB LIANALIB LISYSLIB LIHINA)
  FREE F(SYSOUT LISYSPRT LIMENU LIMSGLIB)
  WRITE SIMPLIA/TF-LINDA E N D AT &SYSTIME
  EXIT

```

図9.18 LINDA起動用コマンドプロシジャ

① 起動用パラメタ

ITEM ..... ③で指定するアイテムライブラリのデータセット編成

( ISAM : 索引順編成 VSAM : VSAM )

PSP ..... LINDA 起動後に割り当てられるワークデータセットの初期量で、あらゆる機能で参照される。( 1 ~ 9999 TRKまで指定可能)

LINDA で処理対象とするデータセットの容量を目安とする。

【1】 4.2

SSP ..... LINDA 起動後に割り当てられるワークデータセットの増分値で、あらゆる機能で参照される。( 1 ~ 9999 TRKまで指定可能)

【1】 4.2

UNT ..... データセット割当て時の装置名

② LINDA ロードモジュールライブラリ名

③ VSAM又は索引順編成アイテムライブラリ名(データセット編成を①のITEMパラメタに指定する)

④ アナライズファイル名

⑤ コピーライブラリ名(以下のいずれかを指定する。)

{ 利用者資産のコピーライブラリ(区分編成またはGEM )  
YPS 構造体解析のコピー句出力用ライブラリ

(YPS 構造体解析のコピー句出力用ライブラリは、各利用者がPFID 等で確保(区分編成、可変長、レコード長: 84 ~ 255 が望ましい)すること。)

⑥ セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名

⑦ 日本語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名

⑧ VSAM又は索引順編成日本語メッセージデータセット名

⑨ 英語画面用IPF 画面定義体ライブラリ名

⑩ VSAM又は索引順編成英語メッセージデータセット名

⑪ COBOL85 ライブラリ名(注)

⑫ COBOL85 コンパイラ名(注)

⑬ ADJUSTルーチンライブラリ名(注)

(動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。)

⑭ IPF ルーチンライブラリ名(注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は

「システムプログラマの手引 タスク管理編」を参照されたい。

## 9.1.1 コマンドプロシジャの実行

9.1.0で修正したコマンドプロシジャを実行する。次の操作を行い、正常に処理されればインストールレーションは完了である。

起動方法： TSS 端末のREADY 状態より以下のコマンドを投入する。

```
EXEC 'LINDA.CLIST'
```

└──────────┘  
                  コマンドプロシジャ名

確認方法：

- ① LINDA 起動後、メニュー画面が出るか確認する。  
異常終了画面が表示される場合は、表9.4 に該当するものがないか確認する。異常終了画面が表示されない場合はコマンドプロシジャの修正に誤りがあると思われる（特に割り当てるデータセット名）。コマンドプロシジャのCONTROL 文にMSG LISTを指定して割り当てが正しく行なわれているか確認する。
- ② メニュー画面が表示された後、オプションを何も指定しないで実行キーを押下する。メッセージが表示されれば、メッセージデータセットは正常に作成されている。  
メッセージが表示されなければメッセージデータセットの作成に誤りがあると思われる。9.8での作業を再確認する。
- ③ 順編成データセットの創成/更新処理でアイテムセレクト処理を行うことで、コピー句の割当て、アナライズファイルとアイテムライブラリの作成が正常に行われていることを確認する。  
選択したレコードがエラーになる場合は、9.4～9.7の作業を再確認する。なお、LINDA の操作方法については“3.適用マニュアル”に示すマニュアルを参照されたい。
- ④ 順編成データセットの印刷、再配置処理を行う。各バッチ処理が正常に終了し、ひな型JCL の修正が正しく行なわれていることを確認する。ただし、これらの処理を行う前には必ず属性定義（オプション'0'）を選択してJOB 文等の印刷情報を修正すること。  
バッチ処理がエラーになる場合は9.9の作業を再確認する。
- ⑤ YPS 構造体解析に対応したコマンドプロシジャを実行して①を確認後、YPS 構造体解析処理を行う。バッチ処理が正常に終了し、ひな型JCL の修正が正しく行なわれていることを確認する。ただし、YPS 構造体解析処理を行う前には属性定義画面でJOB 文等の印刷情報を修正していることを確認しておくこと。  
バッチ処理がエラーになる場合は9.9及び9.10の作業を再確認する。
- ⑥ 必要に応じてA/N端末でも、①～②のテストを実施する。

表9.4 起動時に発生しうるアベンドコードとその対処

システムコード	対 処
0 C 4	アイテムライブラリ(VSAM)に対してVERIFYコマンドを発行する。
0 3 B	アイテムライブラリ(ISAM)のセットアップ結果を見直し、セットアップをやり直す。
0 3 D	メッセージファイル(ISAM)のセットアップ結果を見直し、セットアップをやり直す。
ユーザーコード 0 3 1 1	オープンエラー(割当てミス) LINDA コマンドプロシジャのCONTROL 文に、LIST MSG を追加(NOLIST は削除)し、再度起動して、割当てエラー'になっていないか調べる。

## 10. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）にデータフォーマットを変換する。

したがって、日本語名標辞書を使用していない、または既にランダムアクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、本プログラムを使用しなくてよい。

### 10.1 フォーマットの変換方法

このプログラムを使用した時に、フォーマットがどのように変換されるかを図10.1に示す。

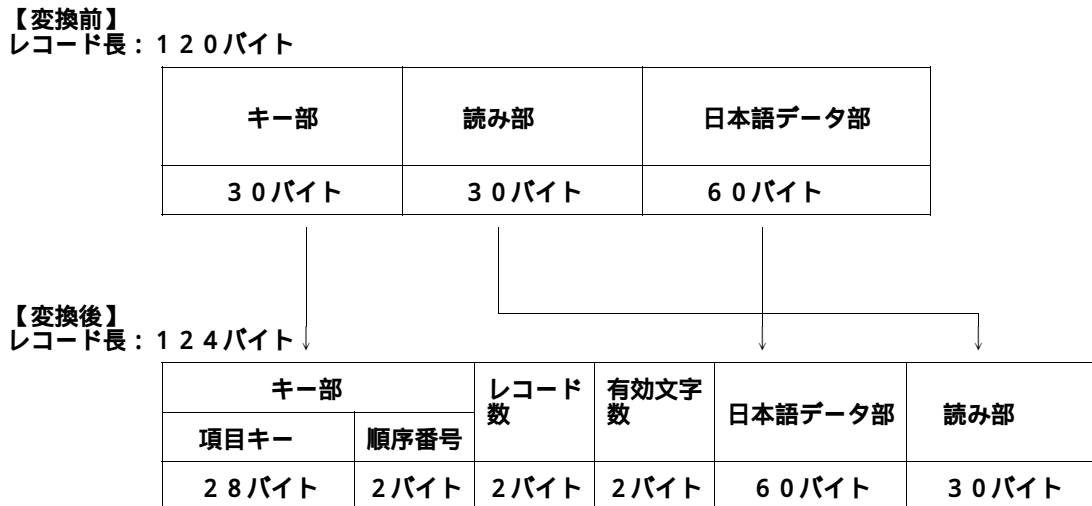


図10.1 フォーマットの変換方法

#### 1) キー部

##### — 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

##### — 順序番号

順序番号には無条件に'01'が設定される。

#### 2) レコード数

無条件に'01'が設定される。

#### 3) 有効文字数

無条件に'30'が設定される。

#### 4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

#### 5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

## 10.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

このプログラムを使用して日本語名標辞書を再作成する時のジョブフローを図10.2に示す。

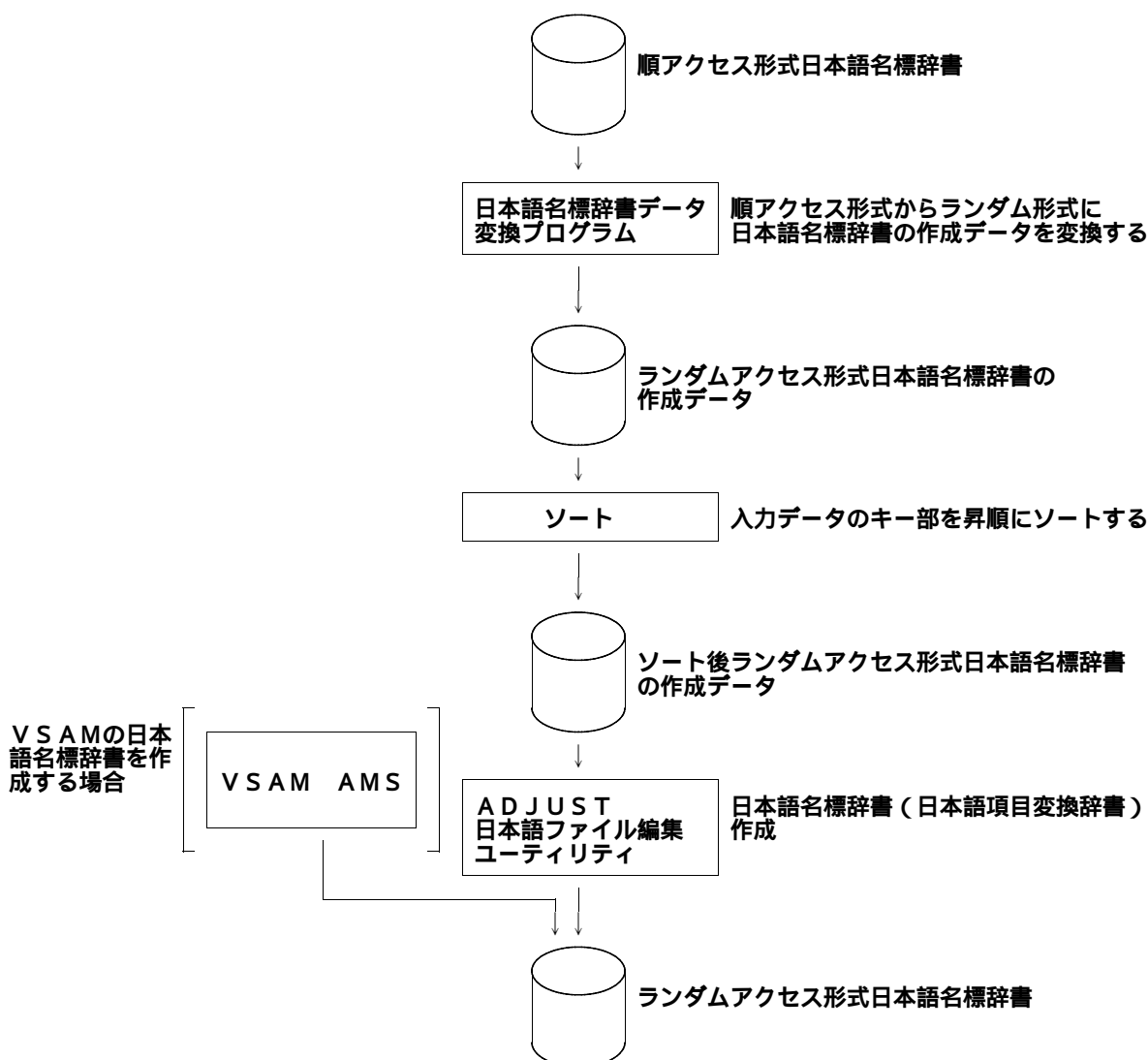


図10.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

## 10.3 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を、図10.3に示し説明する。ジョブ制御文のひな型はセットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'CONVDICT'で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

ランダムアクセス形式日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1 のステップは実行しなくてよい。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW ,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//*          日本語名標辞書      再創成          *
//*****
//JOBLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR          _____ ①
//      DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR          _____ ②
//      DD DSN=@DSN27@,DISP=SHR          _____ ③
//JOBCAT DD DSN=@DSN08@,DISP=SHR          _____ ④
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=960K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(@DSN29@) - _____ ⑤
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(@DSV01@) - _____ ⑥
TRK(5) - _____ ⑦
RECORDSIZ(124 124)) -
DATA -
(NAME(@DSN30@)) - _____ ⑧
INDEX -
(NAME(@DSN31@)) _____ ⑨
/*
//*****
//** 日本語名標辞書 入力データ変換JCL *
//** 順アクセス→ランダムアクセス *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMLDICT
//JSMHCIN DD DSN=@DSN32@,DISP=SHR          _____ ⑩
//JSMHCOUT DD DSN=&&RAN,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//      DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
//      SPACE=(TRK,(10,10))          _____ ⑪
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*
//**          ソート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&LAYOUT,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//      SPACE=(TRK,(50,50)),          _____ ⑪
//      DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*
//*****
//** 日本語ファイル編集ユティリティ *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=@DSN29@,DISP=SHR          _____ ⑫
//CHGLIB DD DSN=&&LAYOUT,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//

```

図10.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
  - ② COBOL85 ライブラリ名(注)
  - ③ ADJUSTルーチンライブラリ名(注)  
(動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。)
  - ④ ユーザカタログ名(マスタカタログで管理する場合は省略可能)
  - ⑤ VSAMのランダムアクセス形式日本語名標辞書名
  - ⑥ VSAMのランダムアクセス形式日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号
  - ⑦ VSAMのランダムアクセス形式日本語名標辞書の割当て容量
  - ⑧ VSAMのランダムアクセス形式日本語名標辞書名のデータ部名
  - ⑨ VSAMのランダムアクセス形式日本語名標辞書名のインデックス部名
  - ⑩ 順アクセス形式日本語名標辞書名
  - ⑪ ランダムアクセス形式日本語名標辞書の作成データの割当て容量
  - ⑫ ランダムアクセス形式日本語名標辞書名  
(VSAMの場合は、⑤のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124 バイトの固定長ブロック化形式のデータセットを指定する。)
- 注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

#### 10.4 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- キー部のデータに重複しているものがあるなど、入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、当プログラムはチェック及びエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降は切り捨てて変換される。

## 11. アナライズファイル変換プログラム

このプログラムは、V20L31～V20L33のLINDA 利用者が従来のアナライズファイルの内容をそのまま使用したい場合、V20L34以降のLINDA で使用可能なデータフォーマットにアナライズファイルを変換する。

したがって、アナライズファイルを新規作成する利用者は、本プログラムを使用しなくてよい。

### 11.1 アナライズファイル変換ジョブフロー

このプログラムを使用してアナライズファイル変換を行う時のジョブフローを図11.1に示す。

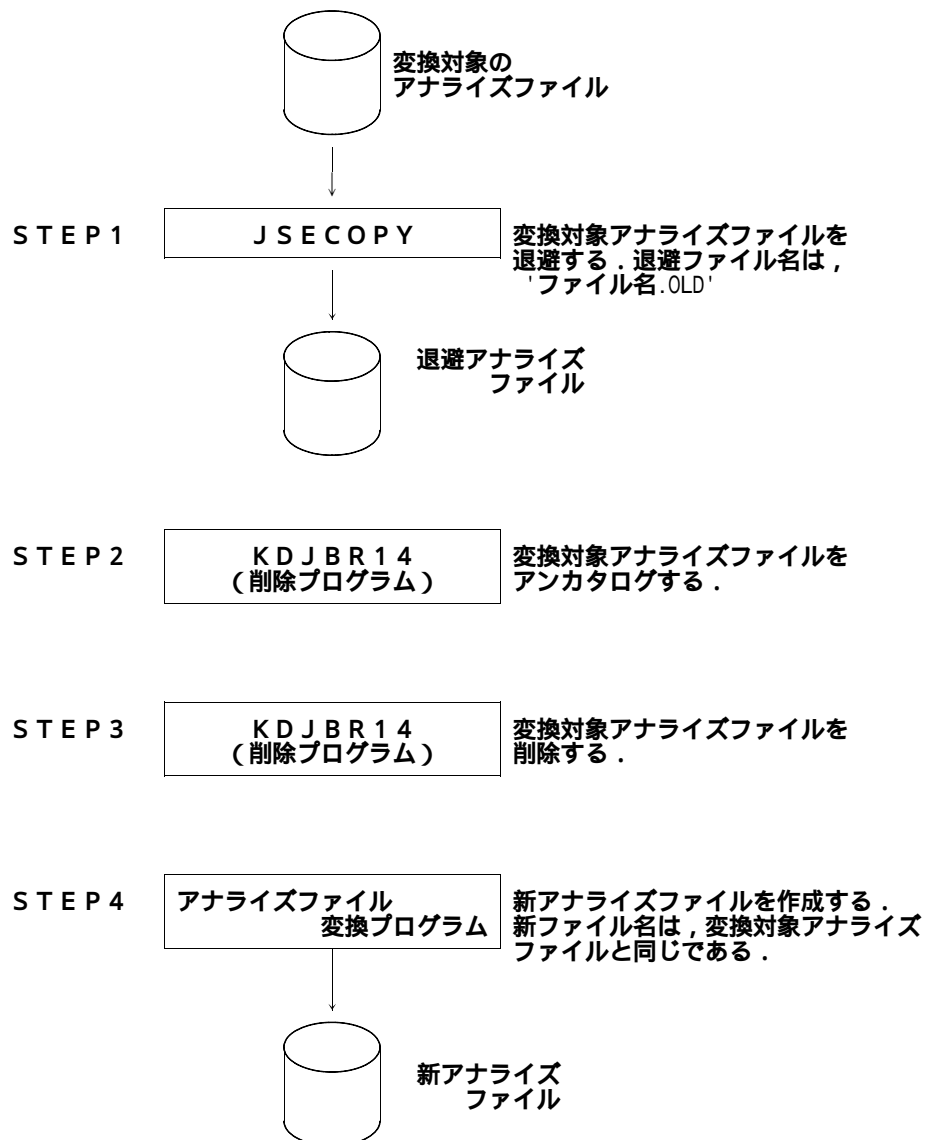


図11.1 アナライズファイル変換のジョブフロー



## 11.2 実行ジョブ制御文

アナライズファイル変換プログラムのジョブ制御文を、図11.2に示し説明する。ジョブ制御文のひな型は、セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'CONVANA'で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

ひな型はマクロになっており、利用者はマクロ変数の指定のみ意識すればよい。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=? ,MSGLEVEL=(1,1,1)
//JOBPROC DD DSN=@DSN23@,DISP=SHR
//JOBLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA アナライズファイルコンバート JCL
//*****
//CONVANA EXEC PROC=CONVANA1,
// ANALIB='@DSN12@',
// VOLOLD=@DSV01@,
// VOLNEW=@DSV01@,
// VOLSAV=@DSV01@,
// UNIT=SYSDA,
// SP=TRK,
// PRIM=20,
// SEC=5,
// DIR=10
//
```

図11.2 アナライズファイル変換プログラムのジョブ制御文例

- ① セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ名
  - ② LINDA ロードモジュールライブラリ名
  - ③ COBOL85 ライブラリ名(注)
  - ④ 変換対象のアナライズファイル名
  - ⑤ 変換対象のアナライズファイルのボリューム通し番号
  - ⑥ 新アナライズファイルを創成する際のボリューム通し番号
  - ⑦ 退避用アナライズファイルを創成する際のボリューム通し番号
  - ⑧ 新アナライズファイル、退避用アナライズファイルを創成する際の装置名及び、変換対象のアナライズファイルの装置名
  - ⑨ 新アナライズファイル、退避用アナライズファイルを創成する際のスペース単位
  - ⑩ 新アナライズファイルを、退避用アナライズファイル創成する際の初期量
  - ⑪ 新アナライズファイルを、退避用アナライズファイル創成する際の増分量
  - ⑫ 新アナライズファイルを、退避用アナライズファイル創成する際のディレクトリブロック数
- 注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 11.3 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- 新アナライズファイルは、指定された変換対象アナライズファイルと同じ名前で作成される。
- 変換対象アナライズファイルは、'ファイル名.OLD'の名前で作成されたファイルに退避される。

#### 11.4 異常終了時の対処

変換ジョブが何らかの原因で異常終了した場合は、以下の手順で再実行を行う。

- STEP1 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) 再実行する。
- STEP2 又はSTEP3 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) 変換対象の旧アナライズファイルの存在を確認し、残っていれば、旧アナライズファイルの退避先ファイルを削除する。  
残っていなければ、退避先ファイル名を旧アナライズファイル名に変更する。
  - (3) 再実行する。
- STEP4 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) 新アナライズファイルの存在を確認し、残っていれば削除する。
  - (3) 退避先ファイル名を旧アナライズファイル名に変更する。
  - (4) 再実行する。

## 12. アナライズ情報登録プログラム

このプログラムは、コピー句の解析情報をバッチ処理でアナライズファイルに登録する。

各画面（創成，更新などの初画面やユーティリティのコピー句解析）でアナライズ情報を登録する利用者は，本プログラムを使用しなくてよい。

### 12.1 実行ジョブ制御文

アナライズ情報登録プログラムのジョブ制御文を，図12.1に示し説明する。ジョブ制御文のひな型は，セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'JSMLU060'で提供している。

下線部分は変更箇所であり，図中の項番は説明中の項番に対応する。また，ジョブ名，装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお，@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し，必要があれば更に変更を加える。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA COPY TEXT ANALYSIS JCL *
//*****
// EXEC PGM=JSMLU060,REGION=2048K,PARM=0
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=@DSN26@,DISP=SHR _____ ③
//LISYSLIB DD DSN=@DSN25@,DISP=SHR _____ ④
//LIANALIB DD DSN=@DSN12@,DISP=SHR _____ ⑤
//LIMSGLIB DD DSN=@DSN13@,DISP=SHR _____ ⑥
//LISYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(2,1)),
// DISP=(NEW,DELETE,DELETE)
//LISYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10,5)),
// DISP=(NEW,DELETE,DELETE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=6100)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//LISYSPT DD SYSOUT=*
//LISYSIN DD *
@OPTIONS CURRENCY(¥),DPOINT(PERIOD),APOST,RSV(ALL) _____ ⑦
COPY CPYTEXT1. _____ ⑧
@OPTIONS CURRENCY(¥),DPOINT(PERIOD),APOST,RSV(ALL) _____ ⑦
COPY CPYTEXT2. _____ ⑧
/*
//
```

図12.1 アナライズ情報登録プログラムのジョブ制御文例

- ① LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ② COBOL85 ライブラリ名（注）
- ③ COBOL85 コンパイラ名（注）
- ④ コピーライブラリ名
- ⑤ アナライズファイル名
- ⑥ VSAM又は索引順編成英語メッセージデータセット名

⑦ COBOL85 翻訳オプション

以下のオプションが有効であり、各翻訳オプションの指定順序は任意である。

RSV オプションは COBOL85 のバージョンレベルによって異なる。

なお、翻訳オプションの詳細は「COBOL85 使用手引書」を参照されたい。

[ ] は省略可能、{ } はいずれかを選択する。

[ CURRENCY(通貨記号) ]

[ ,DPOINT( { COMMA } ) ]

[ , { QUOTE } ]

[ ,APOST ]

[ ,RSV( { ALL } ) ]

- COBOL85 がV12L10以降の場合、上記以外に下記のオプションが指定可能。

[ ,NCW( { STD } ) ]

[ ,SYS ]

⑧ 解析するコピー句名

(指定形式は COBOL85 の COPY 文と同じである。)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

12.2 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- COBOL85 翻訳オプションの指定とコピー句の指定は対にしなければならず、最大10個まで指定可能である。ただし、コピー句内に複数の01レベル項目がある場合、指定したコピー句の先頭から10個までが有効となる。
- 01レベル項目から始まっていないコピー句を指定する場合は、COPY文の前に01レベル項目名を記述する必要がある。

例) @OPTIONS CURRENCY(¥),DPOINT(PERIOD),APOST,RSV(ALL)  
01 REC1.  
COPY CPYTEXT1.

- 翻訳エラーがある場合は、「COBOL85 メッセージ説明書」を参照されたい。

### 13. 索引順編成アイテムライブラリ変換プログラム

このプログラムは、V20L32～V23L10のLINDA 利用者が従来の索引順編成アイテムライブラリの内容をそのまま使用したい場合、V24L10以降のLINDA で使用可能なデータフォーマットに索引順編成アイテムライブラリを変換する。

したがって、索引順編成アイテムライブラリを新規作成する利用者は、本プログラムを使用しなくてよい。

#### 13.1 索引順編成アイテムライブラリ変換ジョブフロー

このプログラムを使用してアイテムライブラリ変換を行う時のジョブフローを図13.1に示す。

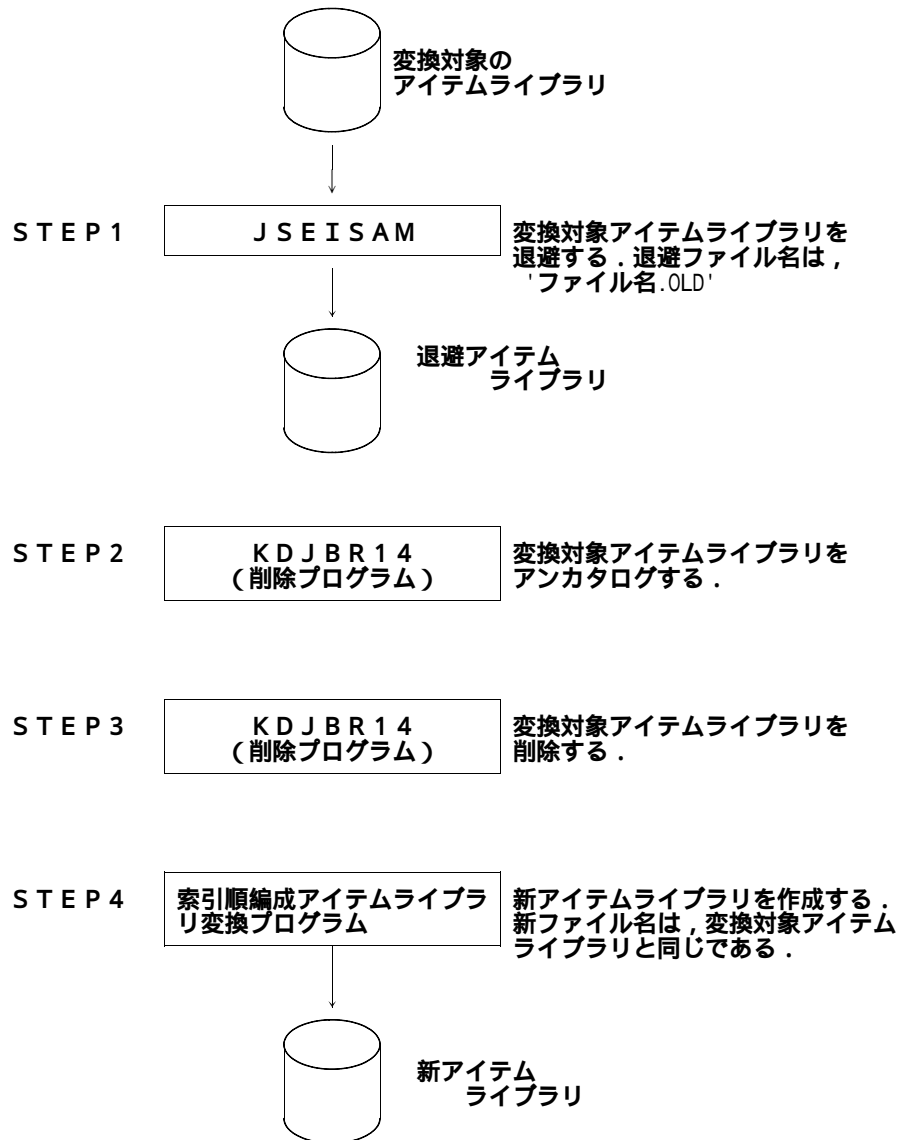


図13.1 索引順編成アイテムライブラリ変換のジョブフロー

### 13.2 実行ジョブ制御文

索引順編成アイテムライブラリ変換プログラムのジョブ制御文を、図13.2に示し説明する。ジョブ制御文のひな型は、セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'CONVITM'で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA ISAM アイテムライブラリコンバート JCL *
//*****
//* キュウアイテムライブラリ ヲ タイヒスル
//*****
//SAVE EXEC PGM=JSEISAM,REGION=1024K,
// PARM='COPY'
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=@DSN07@,DISP=SHR, _____ ①
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=@DSV01@
//SYSUT2 DD DSN=@DSN07@.OLD, _____ ②
// SPACE=(CYL,(5)),UNIT=SYSDA,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=@DSV01@,
// DCB=(DSORG=IS,LRECL=2940,BLKSIZE=2940,RECFM=F,KEYLEN=76,RKP=1)
//*
//*****
//* キュウアイテムライブラリ ヲ サクゾスル
//*****
//UNCAT EXEC PGM=KDJB14,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//U01 DD DSN=@DSN07@, _____ ①
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=@DSV01@,DISP=(OLD,UNCATLG,UNCATLG)
//*
//DELETE EXEC PGM=KDJB14,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//U01 DD DSN=@DSN07@, _____ ①
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=@DSV01@,DISP=(OLD,DELETE,DELETE)
//*
//*****
//* シンアイテムライブラリ ヲ サクセイスル
//*****
//CONVT EXEC PGM=JSMLU041,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ③
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ④
//LIITMOLD DD DSN=@DSN07@.OLD,DISP=SHR _____ ②
//LIITMLIB DD DSN=@DSN07@. _____ ⑤
// SPACE=(CYL,(5)),UNIT=SYSDA,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=@DSV01@,
// DCB=(DSORG=IS,LRECL=3860,BLKSIZE=3860,RECFM=F,KEYLEN=76,RKP=1)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図13.2 索引順編成アイテムライブラリ変換プログラムのジョブ制御文例

- ① 変換対象の旧索引順編成アイテムライブラリ名、及びそのボリューム通し番号
  - ② 旧索引順編成アイテムライブラリの退避先データセット名、及びそのボリューム通し番号、スペース量（シリンダ数）
  - ③ LINDA ロードモジュールライブラリ名
  - ④ COBOL85 ライブラリ名（注）
  - ⑤ 新索引順編成アイテムライブラリ名、及びそのボリューム通し番号、スペース量（シリンダ数）
- 注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

### 13.3 異常終了時の対処

変換ジョブが何らかの原因で異常終了した場合は、以下の手順で再実行を行う。

- STEP1 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) 再実行する。
- STEP2 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) STEP2 から再実行する。
- STEP3 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) STEP3 から再実行する。
- STEP4 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する。
  - (2) 新アイテムライブラリの存在を確認し、残っていれば削除する。
  - (3) STEP4 から再実行する。

#### 14. VSAMアイテムライブラリ変換プログラム

このプログラムは、V20L31～V23L10のLINDA 利用者が従来のVSAMアイテムライブラリの内容をそのまま使用したい場合、V24L10以降のLINDA で使用可能なデータフォーマットにVSAMアイテムライブラリを変換する。

したがって、VSAMアイテムライブラリを新規作成する利用者は、本プログラムを使用しなくてよい。

##### 14.1 VSAMアイテムライブラリ変換ジョブフロー

このプログラムを使用してアイテムライブラリ変換を行う時のジョブフローを図14.1に示す。

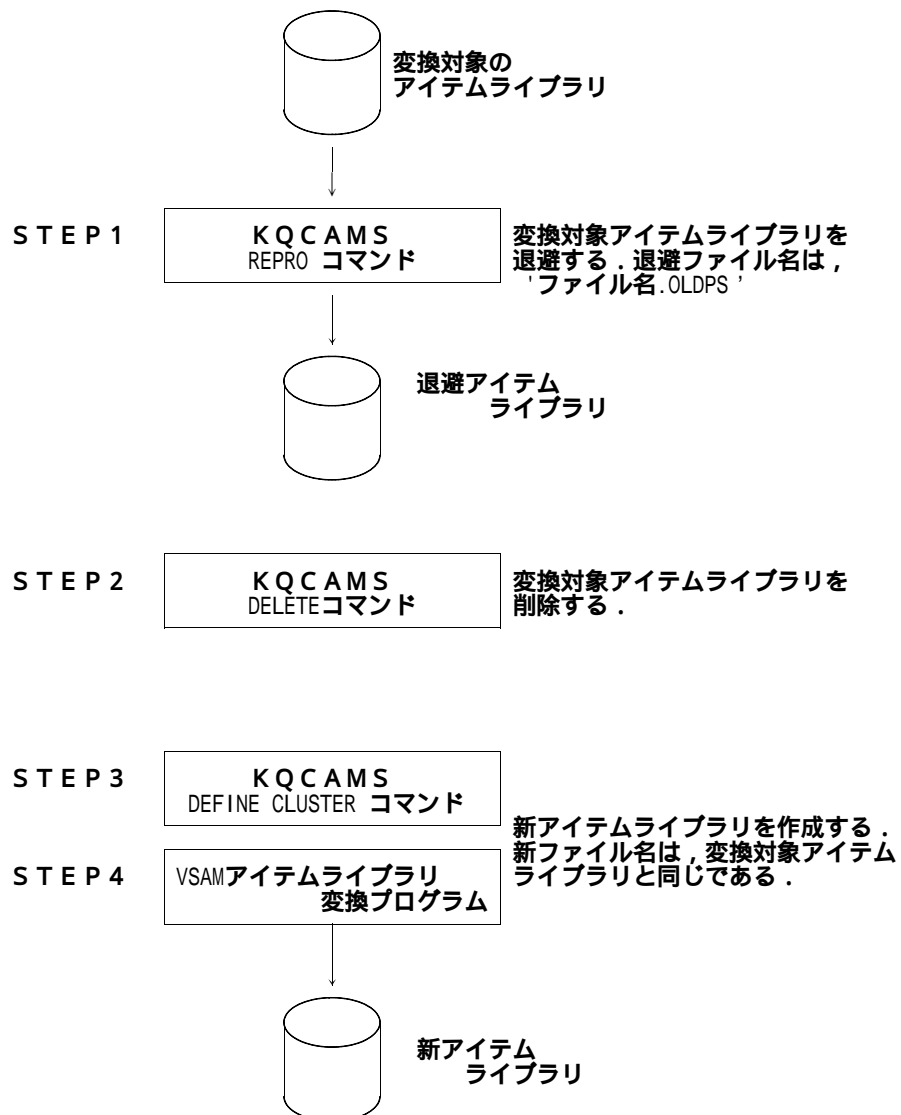


図14.1 VSAMアイテムライブラリ変換のジョブフロー



## 14.2 実行ジョブ制御文

VSAMアイテムライブラリ変換プログラムのジョブ制御文を、図14.2に示し説明する。ジョブ制御文のひな型は、セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'CONVV1TM'で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```

//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//* SIMPLIA/TF-LINDA VSAMアイテムライブラリコンパ-ト JCL *
//*****
//JOB CAT DD DSN=@DSN08@,DISP=SHR _____ ①
//*****
//* キュウアイテムライブラリ ヲ タイヒスル
//*****
//SAVE EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K
//IN01 DD DSN=@DSN09@,DISP=SHR _____ ②
//OUT01 DD DSN=@DSN09@.OLDPS, _____ ③
// SPACE=(CYL,(2,1),RLSE),UNIT=SYSDA,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=@DSV01@,
// DCB=(LRECL=2940,BLKSIZE=2940,RECFM=F)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
// REPRO INFILE(IN01) OUTFILE(OUT01)
/*
//
//*****
//* キュウアイテムライブラリ ヲ サクゾスル
//*****
//DELETE EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
// DELETE (@DSN09@) CLUSTER _____ ②
/*
//
//*****
//* シンアイテムライブラリ ヲ サクセイスル
//*****
//DEFCL EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
// DEFINE CLUSTER -
// (NAME(@DSN09@) - _____ ④
// INDEXED -
// VOLUMES(@DSV01@) -
// CYLINDERS(3) -
// RECORDSIZE(3860 3860) -
// KEYS(76 0) -
// IMBED -
// UNIQUE -
// SHAREOPTIONS(4 4)) -
// DATA -
// (NAME(@DSN10@)) -
// INDEX -
// (NAME(@DSN11@))
/*
//CONVT EXEC PGM=JSMLU042,REGION=1024K,
// COND=(5,LT,SAVE)
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____ ⑤
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____ ⑥
//LIITMOLD DD DSN=@DSN09@.OLDPS,DISP=OLD _____ ③
//LIITMLIB DD DSN=@DSN09@,DISP=OLD _____ ④
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図14.2 VSAMアイテムライブラリ変換プログラムのジョブ制御文例

- ① ユーザカタログ名
- ② 変換対象の旧VSAMアイテムライブラリ名
- ③ 旧VSAMアイテムライブラリの退避先データセット名，及びそのボリューム通し番号，スペース量
- ④ 新VSAMアイテムライブラリ名，及びそのボリューム通し番号，スペース量（シリンダ数），  
データ部名，インデックス部名
- ⑤ LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ⑥ COBOL85 ライブラリ名（注）

注) 認定ライブラリとなっている場合は，指定してはならない．なお，認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい．

#### 1 4 . 3 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する．

- － 旧VSAMアイテムライブラリの退避先データセットは，順編成である．

#### 1 4 . 4 異常終了時の対処

変換ジョブが何らかの原因で異常終了した場合は，以下の手順で再実行を行う．

- － STEP1 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する．
  - (2) 再実行する．
- － STEP2 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する．
  - (2) STEP2 から再実行する．
- － STEP3 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する．
  - (2) 新アイテムライブラリの存在を確認し，残っていれば STEP2 から再実行する．  
残っていなければ STEP3 から再実行する．
- － STEP4 で異常終了した場合
  - (1) 障害原因を究明する．
  - (2) STEP2 から再実行する．

## 15. アイテムライブラリ編成変換プログラム

このプログラムは、V24L10以降のLINDA で使用可能な索引順編成アイテムライブラリをVSAMアイテムライブラリに変換する。

### 15.1 実行ジョブ制御文

アイテムライブラリ編成変換プログラムのジョブ制御文を、図15.1に示し説明する。ジョブ制御文のひな型は、セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'CONVXITM'で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名なども利用者の環境に合わせて変更する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```
//?JOB-NO JOB ?PSW __,CLASS=?,MSGCLASS=?
//*****
//*          ITEMLIB(ISAM) ==> ITEMLIB(VSAM)          *
//*****
//JOB CAT DD DSN=@DSN08@,DISP=SHR                ①
//DEFCL  EXEC PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
  DEFINE CLUSTER -
    (NAME(@DSN09@)) -                ②
    INDEXED -
    VOLUMES(@DSV01@) -
    CYLINDERS(3) -                    ③
    RECORDSIZE(3860 3860) -
    KEYS(76 0) -
    IMBED -
    UNIQUE -
    SHAREOPTIONS(4 4) -
    DATA -
    (NAME(@DSN10@)) -                ④
    INDEX -
    (NAME(@DSN11@))                  ⑤
  /*
//CONVX  EXEC PGM=JSMLU110,REGION=1024K           ⑥
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR                ⑦
//       DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR                ⑧
//LIITMIS DD DSN=@DSN07@,DISP=OLD
//LIITMVS DD DSN=@DSN09@,DISP=OLD                ②
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//
```

図15.1 アイテムライブラリ編成変換プログラムのジョブ制御文例

- ① ユーザカタログ名（マスタカタログで管理する場合は省略可能）
- ② VSAMアイテムライブラリ名
- ③ スペース量
- ④ VSAMアイテムライブラリ・データ部名
- ⑤ VSAMアイテムライブラリ・インデックス部名
- ⑥ LINDA ロードモジュールライブラリ名
- ⑦ COBOL85 ライブラリ名（注）
- ⑧ 索引順編成アイテムライブラリ名

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 16. プロフィール参照用コマンドプロシジャ

LINDA のバージョンレベル等のプロフィールを参照するためのコマンドプロシジャを図16.1に示す。なお、プロフィール取得の詳細については適用マニュアルを参照されたい。 【1】 付B

コマンドプロシジャのひな型は、セットアップ用ジョブ制御文ライブラリ内のメンバ'PROFILE' で提供している。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

```
PROC 0
TIME
CONTROL NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG MSGID
SET &LM=@DSN01@ _____ ①
CALL '&LM(JSMLFEND) '
WRITE
WRITE      SIMPLIA /プロフィール情報出力
WRITE
ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB '@DSN06@' _____ ②
CALL '&LM(JSMLPRFO)' 'PL'
EXIT
```

図16.1 プロフィール参照用コマンドプロシジャ

- ① LINDA ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85 ライブラリ名(注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は「システムプログラミング手引書 タスク管理編」を参照されたい。

## 17. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。(参照 → 4)

表17.1 プログラム修正事項(続く)

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>順編成又は区分編成データセット創成のデータ画面において、PF3 キー押下による創成完了後、引続き遷移したデータ画面でCANCELコマンドを投入し、再びデータ画面に遷移した場合、CANCELコマンドを投入したレコード以降が削除されている。</p> <p>(対処) 順編成又は区分編成データセット創成のデータ画面において、創成完了している場合、CANCELコマンド投入後再びデータ画面に遷移すると、創成完了時点のレコードが表示されるように修正した。</p>	JSMLD010
2	<p>順編成データセット創成のデータ画面において、初期レコードが1件の場合、RERASEコマンド(オペランド省略)を投入すると、“アクセスエラー”になる。</p> <p>(対処) 順編成データセット創成のデータ画面において、1件のみのレコードに対してRERASEコマンドを投入すると、レコード選択メニュー画面に遷移して“空データセット”のメッセージが表示される(空データセットは創成しない)ように修正した。</p>	JSMLD010
3	<p>順編成又は区分編成データセット更新のデータ画面において、キーの値又は抽出条件式でレコードを選択している場合、データ内容の変更により、レコード選択条件に一致するレコードが無くなった状態で、PF5 キーを押下すると、SB37(ワークデータセットの容量不足)で異常終了する。</p> <p>(対処) 順編成又は区分編成データセット更新のデータ画面において、キーの値又は抽出条件で選択した先頭レコードでPF5 キーを押下したとき、レコード選択条件に指定した項目の値が条件から外れていても、選択範囲の先頭レコードである旨のメッセージが表示されるように修正した。</p>	JSMLD020
4	<p>VSAM(ESDS)更新のデータ画面において、キーの値又は抽出条件式でレコードを選択している場合、データ内容の変更により、レコード選択条件に一致するレコードが無くなった状態で、PF5 キーを押下すると、物理的な最終レコードが表示され、“アクセスエラー”(READ エラー コード=00)になる。</p> <p>(対処) VSAM(ESDS)更新のデータ画面において、キーの値又は抽出条件で選択した先頭レコードでPF5 キーを押下したとき、レコード選択条件に指定した項目の値が条件から外れていても、選択範囲の先頭レコードである旨のメッセージが表示されるように修正した。</p>	JSMLD021
5	<p>VSAM(RRDS)更新のデータ画面において、レコード番号又は抽出条件式でレコードを選択している場合、RERASEコマンド投入後にPF6 キーを押下すると、“アクセスエラー”(READ エラー コード=58)になる。</p> <p>(対処) VSAM(RRDS)更新のデータ画面において、レコード番号又は抽出条件式でレコードを選択している場合、RERASEコマンド投入後のPF6 キー押下の動作が正常に行われるように修正した。</p>	JSMLD021
6	<p>順編成データセット創成のデータ画面からPF12キーを押下した後、新たな順編成データセット創成のデータ画面でCANCELコマンドを投入した場合、レコード選択メニュー画面に遷移し、データセットが創成される。</p> <p>(対処) 順編成データセット創成のデータ画面からPF12キーを押下した後であっても、次の順編成データセットの創成をキャンセルできるように修正した。</p>	JSMLX003
7	<p>区分編成データセットの創成において、複数メンバを連続して創成するとき、2メンバ目以降の創成完了前のデータ画面でCANCELコマンドを投入した場合、PO創成第2画面に遷移しない。</p> <p>(対処) 区分編成データセット創成において、2メンバ目以降のデータ画面からCANCELコマンドを投入した場合、創成完了前であれば、PO創成第2画面に遷移するように修正した。</p>	JSMLX007

表17.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
8	<p>VSAMのデータセット名として、クラスタ名以外（インデックス部名またはデータ部名）を指定してもエラーにならない。                      （対処）                      VSAMのデータセット名として、クラスタ名以外（インデックス部名またはデータ部名）を指定した場合は、エラーになるように修正した。</p>	JSMLK301 JSMLP301 JSMLU014 JSMLW200 JSMLXATB
9	<p>レコード選択メニュー画面でオプション'2'を指定したときのアイテム名選択画面において、項目数が100以上50の倍数のとき、集団項目を選択し、その集団項目配下には選択していない項目が最終項目まで50項目を超えて存在する場合、PF3キーを押下すると処理中のままになる。                      （対処）                      レコード選択メニュー画面でオプション'2'を指定したときのアイテム名選択画面において、コピー句の項目数が100以上50の倍数の場合でも、集団項目のみを選択できるように修正した。</p>	JSMLI032
10	<p>AIM配下のVSAM更新/印刷/表示のレコード選択メニュー画面又はデータ画面から、'= オプション'+PF12キー押下により、順編成又は区分編成データセット更新/表示に遷移した場合、レコード選択メニュー画面からENTERキーを押下すると、“アクセスエラー”になる。                      （対処）                      AIM配下のVSAM更新/印刷/表示のレコード選択メニュー画面又はデータ画面から、'= オプション'+PF12キー押下により、順編成又は区分編成データセット更新/表示に遷移した場合でも、データ画面を表示できるように修正した。</p>	JSMLX005
11	<p>各初画面において、アナライズファイルに存在するダミーメンバ名：@@@@@（アナライズファイル創成で作成される）をコピー句名に指定した場合、SOC1又はSOC4で異常終了する。                      更に異常終了画面でENTERキーを押下するとセッションが終了する。                      （対処）                      各初画面において、アナライズファイルのダミーメンバ名をコピー句名に指定した場合は、以下のメッセージが表示されるように修正した。                      “コピー句解析誤り 指定したコピー句に誤りがあるか、又はY P Sメンバ名である。”</p>	JSMLXANA JSMLU012
12	<p>再配置において、新コピー句及び旧コピー句として、アナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、初期化データ入力画面でENTERキーを押下すると、SOC4(MSP)又はS002(XSP)で異常終了する。                      （対処）                      再配置において、新コピー句及び旧コピー句として、アナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、初期化データ入力画面でENTERキーを押下しても異常終了しないように修正した。</p>	JSMLXSAN
13	<p>再配置において、新旧何れかのコピー句として、アナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、再配置パッチジョブで“CONTROL DATASET CLOSE ERROR”となり、空データセットが創成される。                      （対処）                      再配置において、新旧何れかのコピー句として、アナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、再配置パッチジョブで“CONTROL DATASET CLOSE ERROR”とならないように修正した。</p>	JSMLXSAN
14	<p>再配置において、新コピー句としてアナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、旧コピー句としてコピーライブラリ入力でメンバ選択画面を表示すると、アナライズファイルのメンバ名が表示される。                      （対処）                      再配置において、新コピー句としてアナライズファイル入力で複数の01レベル項目から先頭の01レベル項目を選択した場合、旧コピー句としてコピーライブラリ入力でメンバ選択画面を表示すると、コピーライブラリのメンバ名が表示されるように修正した。</p>	JSMLXSAN

表17.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
15	<p>データセットの創成，更新，印刷，表示又は再配置において，コピー句として空メンバを指定すると，SOC4で異常終了する．                      （対処）                      データセットの創成，更新，印刷，表示又は再配置において，コピー句として空メンバを指定した場合，“コピー句解析失敗 内部使用ファイルアクセスエラー。”のメッセージが表示されるように修正した．</p>	JSMLU060 JSMLU090 JSMLXANA JSMLXSAN
16	<p>データセットの創成，更新，印刷又は表示において，コピー句解析でC0 BOL85 コンパイラがリージョン不足で異常終了した場合，SOC4で異常終了する．                      （対処）                      データセットの創成，更新，印刷又は表示において，コピー句解析でC0 BOL85 コンパイラがリージョン不足で異常終了した場合，“コピー句解析失敗 コンパイラ異常終了。”のメッセージが表示されるように修正した．</p>	JSMLU060 JSMLU090 JSMLXANA JSMLXSAN
17	<p>複数のレコードが存在し，RERASEコマンドのオペランド指定により全件削除しようとした場合，次のメッセージが表示されるが，コマンド欄がクリアされる．                      “オペランド不当 RERASEコマンドでの全件削除はできません。”                      （対処）                      RERASEコマンドを投入して“オペランド不当 RERASEコマンドでの全件削除はできません。”のメッセージが表示された場合，コマンド欄に指定したコマンドが残るように修正した．</p>	JSMLD001 JSMLD003
18	<p>データセットの更新において，JEF コマンドのオペランドに誤って日本語文字を指定した場合，その後の操作でSOC1又はSOC4で異常終了する場合がある．                      （対処）                      JEF コマンドに日本語文字を指定して“オペランド不当”となっても，その後の操作で異常終了しないように修正した．</p>	JSMLXCAN
19	<p>順編成データセット創成の創成条件入力画面からHELPコマンドで遷移したアイテム名選択画面において，PF12キーを押下すると，メニュー画面ではなく創成条件入力画面に遷移する．                      （対処）                      創成条件入力画面からHELPコマンドで遷移したアイテム名選択画面において，PF12キーを押下するとメニュー画面に遷移するように修正した．</p>	JSMLS120
20	<p>データ画面において，OCCURSコマンドによりOCCURS項目を展開している場合，PF5 キー及びPF6 キーによるレコード遷移を行うと，データ画面に表示されるレコードの相対位置が維持される．OCCURSコマンドによりOCCURS項目を展開していない場合には，PF5 キー及びPF6 キーによるレコード遷移を行うと，レコードの相対位置は先頭に位置付けられる．（OCCURS項目を展開している場合と展開していない場合で，PFキーによるレコード遷移の動作が異なる．）なお，当事象はHEX コマンドによる16進形式での表示においても同様である．                      （対処）                      OCCURSコマンドによりOCCURS項目を展開している場合のPF5 キーおよびPF6 キーの動作が，OCCURSコマンドによりOCCURS項目を展開していない場合の動作と同様になるように修正した．</p>	JSMLD001 JSMLD002
21	<p>“OCCURS区分不当 ODO句のあるコピー句では区分，'YES'の指定はできません。”のメッセージが表示された場合，OCCURS項目展開表示欄にカーソルが移動しない．また，高輝度にもならない．                      （対処）                      “OCCURS区分不当 ODO句のあるコピー句では区分，'YES'の指定はできません。”のメッセージが表示された場合，OCCURS項目展開表示欄にカーソルが移動し高輝度になるように修正した．</p>	JSMLXANA JSMLX003 JSMLX004 JSMLX005 JSMLX006 JSMLX007
22	<p>“コピー句不当 ODO句が複数存在しています。”のメッセージが表示された場合，該当コピー句名欄にカーソルが移動しない．また，高輝度にもならない．                      （対処）                      “コピー句不当 ODO句が複数存在しています。”のメッセージが表示された場合，該当コピー句名欄にカーソルが移動し高輝度になるように修正した．</p>	JSMLXANA JSMLX003 JSMLX004 JSMLX005 JSMLX006 JSMLX007

表17.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
2 3	<p>データ画面において、RERASEコマンドで範囲指定を行う場合、終了レコード番号（オペランドのレコード番号-2）に、存在するレコード番号より大きいレコード番号を指定すると、“オペランド不当”となる場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- オペランド不当となる場合           <ul style="list-style-type: none"> <li>削除対象レコードが1件のみ存在する。</li> <li>ただし、開始レコード番号（オペランドのレコード番号-1）と終了レコード番号に、それぞれ最終レコード番号を指定した場合（実質的に範囲指定とはならない場合）には、オペランド不当とはならない。</li> </ul> </li> <li>- オペランド不当とならない場合           <ul style="list-style-type: none"> <li>削除対象レコードが複数存在する。</li> </ul> </li> </ul> <p>（対処） 上記のオペランド不当となる場合において、オペランド不当ではなく処理を続行するように修正した。</p>	JSMLD020
2 4	<p>創成又は更新のデータ画面においてPF5 ~8 キーを押下したとき、コマンド欄にコマンド以外の文字列が入力されている場合は“コマンド不当”のエラーになるが、コマンドが入力されている場合は無視される。表示のデータ画面の場合は、PFキーの種類によらずコマンド欄は無視される。</p> <p>（対処） データ画面において、PF3 , PF5 ~8 又はPF12キーを押下したとき、コマンド欄に入力があればエラーメッセージが表示されるように修正した。</p>	JSMLD001 JSMLD002 JSMLD003 JSMLD004
2 5	<p>データ画面及び印刷リストにおいて、索引順編成データセットの可変長レコードが正しく表示されない。最大レコード長より小さいレコードを読み込むと、実際のレコード長より後に不当なデータ（前レコードの内容など）が表示される。</p> <p>（対処） データ画面及び印刷リストにおいて、索引順編成データセットの可変長レコードが正しく表示されるように修正した。</p>	JSMLXA1S
2 6	<p>KEYREAD コマンドのオペランドの指定がC' ' の場合、“該当キーなし”になる。</p> <p>（対処） KEYREAD コマンドのオペランドの指定がC' ' の場合、“オペランド不当”のメッセージが表示されるように修正した。</p>	JSMLXCAN
2 7	<p>順編成 / 区分編成データセット更新のデータ画面において、PF5 キーを一度押下しても、画面の表示が変わらない。（PF5 キーをもう一度押下すれば、先頭レコード表示のメッセージ又は前レコードが表示される。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 発生オペレーション           <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アイテムセレクトで、キーの値または抽出条件式で複数のレコードを選択</li> <li>2. 更新のデータ画面に遷移</li> <li>3. レコード選択条件に一致しないデータ内容に変更</li> <li>4. PF6 キーを押下またはRJUMP コマンドを投入（指定のレコードに遷移）</li> <li>5. PF5 キーを押下またはRBACK コマンドを投入</li> </ol> </li> </ul> <p>（対処） 上記の場合に、レコード抽出及びレコード選択条件に一致する前レコードが表示されるように修正した。</p>	JSMLD020
2 8	<p>順編成データセットの創成において、RERASEコマンドで全てのレコードを削除した場合に、レコード選択メニュー画面に戻るが再度データ画面に遷移できてしまう。</p> <p>（対処） 順編成データセットの創成において、RERASEコマンドで全てのレコードを削除した場合に、レコード選択メニュー画面に戻り、再度データ画面に遷移できないよう修正した。この時、空データセットのメッセージを出力する。なお、順編成データセットの創成で全てのレコードを削除した場合、データセットは創成されない。</p>	JSMLD001
2 9	<p>再配置において、使用する01レベル項目の配下にOCCURS DEPENDING ON句があり、その領域に従属しない項目が続く場合、初期値が設定されない。ただし、DEPENDING ON句に続くデータ項目は、同一レコード内に存在すること。</p> <p>（対処） 再配置において、使用する01レベル項目の配下にOCCURS DEPENDING ON句がある場合は制限とし、メッセージを表示して処理を中断するように修正した。</p>	JSMLU012 JSMLU013



表17.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
3 0	<p>創成/更新のデータ画面において、HEX コマンド投入後、オペランドを指定したコマンドで“オペランド不当”のメッセージが表示された場合、コマンド欄に指定したコマンドが残らない。                      (対処)                      創成/更新のデータ画面において、HEX コマンドを投入した後“オペランド不当”のメッセージが表示された場合、コマンド欄に指定したコマンドが残るように修正した。</p>	JSMLD001
3 1	<p>再配置初画面及び再配置第2画面において“コピー句解析誤り”のエラーが表示された場合、カーソルがコピー句名欄へ移動せずコマンド欄へ移動する。                      (対処)                      再配置初画面及び再配置第2画面において、指定したコピー句の解析でエラーになった場合、コピー句名欄へカーソルが移動するように修正した。</p>	JSMLU012
3 2	<p>データ画面において、VSAM(KSDS、RRDS)及び索引順編成データセットをアイテムセレクトによりレコードを抽出している状態で、レコードの更新を行うとレコード番号が不当な値になる場合がある。                      - 発生オペレーション                      1. キー値でレコードを抽出する。                          → VSAM(KSDS)及び索引順編成データセットは、レコード番号がゼロになる。VSAM(RRDS)は、レコード番号に相対番号が表示される。                      2. 表示されているレコードより小さいキー値(RRDSは相対番号)のレコードをWRITE コマンドで追加する。                          → レコード番号が1カウントアップされる。なお、索引順編成データセットはレコードの追加に失敗した場合、レコード番号が2カウントアップされる。                      (対処)                      データ画面において、VSAM(KSDS、RRDS)及び索引順編成データセットをアイテムセレクトのキー値によるレコード抽出を行っている状態で、表示しているレコードより小さいキー値(RRDSは相対番号)のレコードをWRITE コマンドで追加しても、レコード番号がカウントアップされないように修正した。</p>	JSMLD021 JSMLD023
3 3	<p>データ画面において、VSAM(KSDS)をアイテムセレクトによりレコードを抽出している状態で、レコードの更新を行うとレコード番号が不当な値になる場合がある。                      - 発生オペレーション                      1. VSAM(KSDS)において、KEYREAD コマンドを投入し指定したキー値のレコードに遷移する。                          → レコード番号がゼロになる。                      2. 表示されているレコードより小さいキー値のレコードをWRITE コマンドで追加する。又は、最終レコードをRERASEコマンドで削除する。                          → レコード番号が1カウントアップされる。                      (対処)                      データ画面において、VSAM(KSDS)に対してKEYREAD コマンドを投入するとレコード番号がゼロになるが、その状態で表示しているレコードより小さいキー値のレコードをWRITE コマンドにて追加、又は最終レコードをRERASEコマンドで削除しても、レコード番号がカウントアップされないように修正した。</p>	JSMLD021 JSMLD023
3 4	<p>再配置において、コピー句に77レベル項目がある場合、“レベル番号不当'01'から'49'までの数字で入力して下さい。”のメッセージが表示されるが、77レベル項目のないコピー句に変更しても同じエラーになる。各初画面及びユーティリティのコピー句解析においては、コピー句名変更直後は再配置と同じ現象になるが、再度ENTER キーを押下すると正常に動作する。                      (対処)                      コピー句に77レベル項目があるために表示されるメッセージは、77レベル項目のないコピー句名に変更すれば表示されなくなるように修正した。</p>	JSMLU090 JSMLXANA JSMLXSAN
3 5	<p>AIM 配下の相対編成データセットを処理中にデッドロックが発生した場合、S073-U008 で異常終了する。                      (対処)                      AIM 配下の相対編成データセットを処理中にデッドロックが発生した場合、“デッドロック発生”のエラーメッセージを出力し、異常終了しないように修正した。</p>	JSMLD001 JSMLD002 JSMLD022 JSMLD032 JSMLXIT JSMLW410 JSMLXARE

表17.1 プログラム修正事項（続き）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
3 6	データ画面（コピーなし）において、画面の最終行に“ *** END OF DATA *** ”が表示され、直前のデータ内容が60バイト（右端）まで存在する状態でPF8 キーを押下すると、画面スクロールが正常に行われない。実際のレコード長を超過した相対位置が画面の先頭行に表示され、データ内容としては何も表示されない。 （対処） 上記条件においても、PF8 キーによる画面スクロールが正常に行われるように修正した。	JSMLD003 JSMLD004
3 7	VSAM(KSDS)、索引順編成データセットのデータ画面においてKEYREAD コマンドで‘データ値[*]’形式のオペランドを入力するとき、コマンドとオペランドの間に空白が二つ以上あると、存在するレコードでも“該当キーなし”になる。 （対処） 該当レコードが存在する場合は、正しく表示されるように修正した。	JSMLXCAN
3 8	VSAM(KSDS)でレコードを選択している場合、通常のKEYREAD コマンドを投入すると“オペランド不当”となる。 （対処） VSAM(KSDS)でレコードを選択している場合、通常のKEYREAD コマンドを投入すると“コマンド投入契機誤り”となるように修正した。	JSMLD021 JSMLD031
3 9	AIM 配下のVSAMにおいて、KEYREAD コマンド発行時にデッドロックが発生した場合、“アクセスエラー”のメッセージが表示される。 （対処） AIM 配下のVSAMにおいて、KEYREAD コマンド発行時にデッドロックが発生した場合、“デッドロック発生”のメッセージが表示されるように修正した。	JSMLD021
4 0	メンバ選択画面においてPF8 キーを押下した時、以降にメンバが存在するにもかかわらず、画面スクロールしない場合がある。 （対処） メンバ選択画面においてPF8 キーを押下した時、最終メンバを表示するまで画面スクロールできるように修正した。	JSMLXMEM JSMLX030
4 1	メンバ選択画面においてPF8 キーを押下した時、PF8 キー押下時画面の最終行に表示されていたメンバ名が（次メンバが存在しても）次画面で再び先頭に表示される場合がある。 （対処） メンバ選択画面においてPF8 キーを押下した時、次画面の先頭メンバ名はPF8 キー押下時画面の最終行に表示されているメンバ名の次のメンバ名から表示されるように修正した。	JSMLXMEM JSMLX030
4 2	メンバ選択画面、YPS 構造体メンバ選択画面においてPF8 キーを押下して画面をスクロールしたとき、最終画面の先頭行（1 行目）にメンバ名が表示されない場合がある。 （対処） メンバ選択画面、YPS 構造体メンバ選択画面においてPF8 キーを押下して画面をスクロールしたとき、最終画面の先頭行にはメンバ名が表示されるように修正した。	JSMLU102 JSMLXMEM JSMLX030
4 3	ユーティリティメニュー画面にオプションを指定し、無効なファンクションキー（HELP、END、PF8、RETURN以外）を押下すると、オプション欄の内容が消える。 （対処） ユーティリティメニュー画面でオプションを指定し、無効なファンクションキーを押下した場合は、オプション欄の値が消えないように修正した。	JSMLU001
4 4	VSAM(RRDS)のデータ画面において、表示されているレコードより小さい相対番号、かつ、既存レコードの相対番号を指定してWRITE コマンドを投入すると“同一キーあり”のエラーとなるがレコード番号は1カウントアップされる。 （対処） VSAM(RRDS)のWRITE コマンドによるレコード追加において、エラーが発生した場合、レコード番号がカウントアップしないように修正した。	JSMLD021

## 18. 制限事項

このソフトウェアを使用する場合の主な制限事項を以下に示す。なお、下記以外の制限事項に関しては、適用マニュアルを参照されたい。 【1】 2.8

表18.1 制限事項

制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
<p>本ソフトウェアはOSIV/MSPスケーラブルSCMPシステム環境に順応するため、ユーザ指定の処理対象データセット、アイテムライブラリ及びアナライズファイルの排他的有効範囲を従来のジョブ間からクラスタ間に拡張している。 したがって、V21L20以前の本ソフトウェア、あるいは、TF-LINDA WS連携オプション V11L11 と本ソフトウェアの同一システム上での上記データセットの共用はできない。</p>	代行方法なし。	未定
<p>本ソフトウェアは使用する作業用データセット名の第一修飾子にユーザIDを使用しているため、同一ユーザIDで複数同時に使用すると割当てエラー等が発生する可能性がある。</p>	代行方法なし。	なし
<p>OCCURS DEPENDING ON 句（以降ODO 句と呼ぶ）及びODO 句の繰返し数を示す項目があり、ODO 句を含む項目の後にODO 句に従属しない同位レベル項目、更にその後上位レベル項目が続くコピー句を使用した場合、ODO 句に従属しない上位レベル項目の相対位置が前項目より小さくなる。</p>	代行方法なし。	未定





**FUJITSU**